

沖縄県立芸術大学

Okinawa Prefectural University of Arts

*Okinawa
Prefectural
University of Arts.*

大学案内2023

- 01 学長メッセージ
- 02 建学の理念／沿革
- 03 大学の教育研究上の目的／大学の3つのポリシー
- 04 大学組織／在学生数
- 05 教員名簿／教職員数
- 06 教育組織・教育分野・研究領域／学年暦

08 美術工芸学部

- 10 絵画専攻
- 12 彫刻専攻
- 14 芸術学専攻
- 16 デザイン専攻
- 18 工芸専攻（染分野・織分野・陶芸分野・漆芸分野）
- 22 第34回卒業・修了作品展／卒業論文・修士論文発表会
- 23 美術工芸学部の地域貢献

24 音楽学部

- 26 音楽表現専攻（声楽コース・ピアノコース・弦楽コース・管打楽コース・作曲理論コース）
- 32 音楽文化専攻（沖縄文化コース・音楽学コース）
- 34 琉球芸能専攻（琉球古典音楽コース・琉球舞踊組踊コース）
- 36 奏楽堂／定期公演
- 37 音楽学部の地域貢献

38 全学教育センター

- 38 全学教育科目・おきげい教養講座・資格課程

40 大学院

- 40 造形芸術研究科 修士課程
- 42 音楽芸術研究科 修士課程
- 44 芸術文化学研究科 博士課程

- 45 芸術文化研究所
- 46 附属図書・芸術資料館
- 47 施設紹介
- 48 国際交流
- 50 卒業後の進路／主な就職先
- 52 活躍する卒業生
- 53 学費・奨学金
- 54 学生生活サポート
- 55 芸大祭／オープンキャンパス
- 56 入試情報
- 57 アクセスマップ

学長メッセージ

Message from the President



沖縄県立芸術大学は、かつて海洋国家として栄えた琉球國の由緒ある地、首里に1986年に開学して以来、今年で38年目を迎えます。本学の建学の精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展はもとより、新たな芸術創造の可能性を広げ、地域ひいては世界の芸術文化の向上発展に寄与できる人材の育成を教育の理念に掲げています。

自由な精神を礎に人間性を表す芸術活動は、優れて人間らしい営為です。先史の洞窟画や縄文の造形が物語るように、原始太古より創造行為は人類の生活と共にありました。そして、今日の高度情報社会から国の目指すSociety 5.0（超スマート社会）に向けて、今後、状況に応じて「情報」の意味を理解し「人間の強み」を発揮しなくてはならない機会が増えるとともに、人には今まで以上に、豊かな感性や自然観、新しいものや変わっていくものに対する好奇心や探求力、柔軟な発想力が求められます。また、DX、アフターコロナという大きな時代の転換期にある今、新たな社会を牽引する人材として求められるのは、「価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材と、それらの成果と社会課題をつなげ、プラットフォーム等を創造する人材」などとされ、「文化、芸術、スポーツ等の人間の創造力により生み出され、人々の共感を生み発展し続けてきた分野は、ますます社会

に求められる」とも言われています。したがって芸術諸領域に携わる者には、社会的役割が期待されると同時に、責任ある場面も増してくるでしょう。

本学は、そのような次代を担う豊かな人間性と社会性、国際的視野を備えた芸術分野の専門家として、幅広く社会で活躍できる人材の育成を念頭に、個性の伸長を期して少人数教育を中心に学修者本位の教育を行って参ります。その中で、芸術を志す人に求められる多様な価値観への理解と、多角的な視点の獲得を共に目指します。

これから社会のデジタルシフトは不可逆的に加速し、ますます世界の平準化は進むばかりです。だからこそ、自らの拠って立つ文化を認識し、芸術の多様性、独創性の源泉である、先入観に囚われない批評的精神を、生涯を通して更新し続けたいものです。

世界的な遺跡が散在するこの美しい南の島には、大交易時代から現代に至るまで異文化を受容し個性ある優れた文化芸術を創造してきた歴史と、都市部にあっても大自然の変化を間近に感じることができる得難い環境があります。この沖縄の歴史と環境は自ずと、芸術と共に人生を歩んで行くのに必要な柔軟で強かな精神を育ててくれるに違いありません。

2023年4月 沖縄県立芸術大学学長

波多野 泉

建学の理念

日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容を持つものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。

県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸・音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。

我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がりを追究し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

沿革

昭和61年 3月31日	一般教育棟・管理棟竣工
昭和61年 4月 1日	沖縄県立芸術大学開学 初代学長 山本正男 就任
昭和62年 11月 4日	沖縄県立芸術大学芸術振興財団設立許可
昭和63年 3月17日	美術棟竣工
昭和63年 10月 7日	登り窯竣工（工芸専攻）
平成 元年 3月26日	体育館竣工
平成 2年 3月26日	第1回卒業式
平成 2年 4月 1日	音楽学部設置
平成 2年 5月 8日	音楽棟竣工
平成 2年 5月15日	開学5周年・音楽学部開設記念式典開催
平成 5年 4月 1日	大学院修士課程造形芸術研究科設置
平成 6年 4月 1日	大学院修士課程音楽芸術研究科設置
平成 6年 7月31日	附属図書・芸術資料館竣工
平成 7年 3月31日	奏楽堂竣工
平成 7年 4月 1日	美術工芸学部美術学科芸術学専攻開設
平成 8年 4月 1日	大学院博士課程芸術文化学研究科設置
平成 8年 5月15日	開学10周年記念式典開催
平成 8年 10月15日	第2代学長 阿部公正 就任
平成 9年 3月31日	福利厚生棟竣工
平成10年 3月31日	附属研究所棟竣工
平成14年 10月15日	第3代学長 大嶺實清 就任
平成15年 7月10日	第4代学長 朝岡康二 就任
平成16年 4月 1日	音楽学部音楽学科邦楽専攻を琉球芸能専攻に改称
平成16年 4月 1日	音楽芸術研究科舞台芸術専攻邦楽専修を琉球古典音楽専修に、楽劇専修を琉球舞踊踊専修に改称
平成18年 7月18日	第5代学長 宮城篤正 就任
平成18年 10月 1日～10月 31日	開学20周年記念事業「平和祈念公園芸術祭」開催
平成22年 7月18日	第6代学長 佐久本嗣男 就任
平成23年 11月17日～11月 27日	開学25周年記念事業「沖縄・タイ国際交流美術展」開催
平成23年 3月31日	デザイン中央棟、工芸棟、彫刻棟竣工
平成23年 10月 1日	首里崎山キャンパス開設式
平成24年 4月 1日	デザイン工芸学科工芸専攻に漆芸分野開設
平成24年 4月 1日	大学院博士課程芸術文化学研究科に芸術表現（実技系）領域を開設
平成26年 7月18日	第7代学長 比嘉康春 就任
平成28年 4月 1日	音楽学部を音楽表現、音楽文化、琉球芸能の3専攻に再編 音楽文化専攻に沖縄文化コースを開設
平成28年 9月22日	開学30周年記念式典開催
令和 2年 4月 1日	第8代学長 波多野泉 就任
令和 3年 4月 1日	公立大学法人沖縄県立芸術大学 設立

大学の教育研究上の目的

沖縄県立芸術大学は、広く教養を培い、深く専門芸術の技術、理論及び歴史を教授研究して、人間性と芸術的創造力及び応用力を育成し、もって伝統芸術文化と世界の芸術文化の向上発展に寄与することを目的とする。(学則第1条)

沖縄県立芸術大学大学院は、建学の理念に則り、高度な芸術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて芸術文化の創造及び発展に寄与することを目的とする。(大学院学則第1条)

大学の3つのポリシー

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学では、大学及び各学部の教育理念に沿った専門教育と教養教育において成果をあげ、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出あるいは卒業演奏を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 美術工芸又は音楽の分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を歴史や文化、社会と関連付けて理解している。
- 2 知的活動や職業生活、社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力などの汎用的基礎能力を身につけている。
- 3 卒業後も社会的責任を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 4 1から3までの知識や能力等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探索し、解決する能力を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、4年間を通して全学教育科目を選択履修し、全学年にわたり専門分野の実技や理論を基礎から高度な内容まで、段階的に履修することを基本に授業科目を編成します。

その上で、さまざまな技術や学問を幅広く主体的に学べるよう配慮し、学生の多様な個性を尊重しつつ、自ら感性を磨き、社会との関係を考え発信していく能力を高める教育を行います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

1 教育の理念

沖縄県立芸術大学の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展にとどまらず、新たな芸術創造の可能性を広げ、幅広く芸術分野で活躍できる人材を育成していきます。さらに、学生の専門的力を高め、豊かな人間性と社会性を身につける教育を目指します。

2 本学の求める人材

- ・本学の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎的知識・技能を備えている人
- ・芸術に強い関心があり、自ら課題を発見し解決するための思考力や判断力、表現力を備えている人
- ・多様な芸術文化に興味を持ち、主体的に人々と協働し、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していく意欲に満ちた人

3 入学者選抜区分

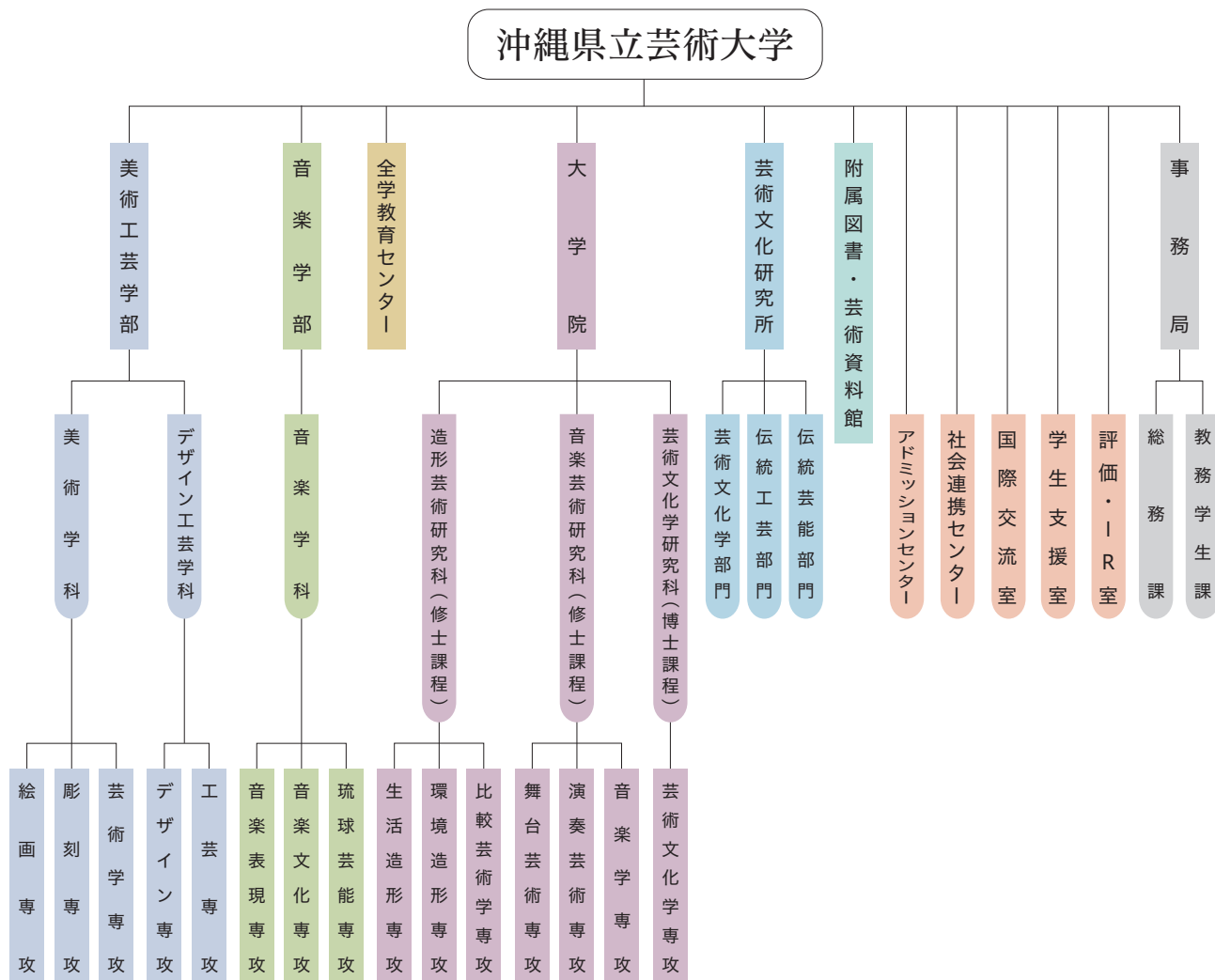
- ・本学では一般選抜、学校推薦型選抜及び社会人選抜を実施します。

4 入学者選抜試験の基本方針と実施

- ・一般選抜においては、大学及び各学部のアドミッションポリシーに基づき、大学入学共通テストの成績を利用した選抜試験と個別学力検査等（実技検査、小論文、口述試験、面接等）を実施します。なお、大学入学共通テストについて、美術工芸学部では、国語、外国語及びその他任意の1科目の合計3科目を試験科目として課します。音楽学部では、国語、外国語の合計2科目を試験科目として課します。
- ・学校推薦型選抜においては、実技検査、小論文、面接等を実施します。
- ・音楽学部の社会人選抜においては、個別学力検査等（専攻試験、小論文等）を実施します。

いずれの試験においても、本学での学習に必要な「学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等）」を測り評価します。

大学組織



在学生数

2022年5月1日現在 単位(人)

学部	学科	専攻	入学定員	総定員数	1年次			2年次			3年次			4年次			合計		
					小計	県内	県外	小計	県内	県外	小計	県内	県外	小計	県内	県外	小計	県内	県外
美術工芸	美術	絵画	10	40	11	4	7	17	9	8	12	4	8	13	9	4	53	26	27
		彫刻	5	20	8	3	5	4	0	4	5	0	5	6	1	5	23	4	19
		芸術学	6	24	7	2	5	5	3	2	7	4	3	8	3	5	27	12	15
	デザイン工芸	20	80	22	16	6	21	14	7	23	16	7	25	19	6	91	65	26	
		工芸	24	96	22	7	15	28	13	15	28	4	24	24	2	22	102	26	76
小計			65	260	70	32	38	75	39	36	75	28	47	76	34	42	296	133	163
音楽	音楽	音楽表現	23	92	24	12	12	28	18	10	26	12	14	27	13	14	105	55	50
		音楽文化	7	28	5	1	4	8	4	4	6	2	4	6	3	3	25	10	15
		琉球芸能	10	40	11	9	2	14	11	3	11	8	3	11	9	2	47	37	10
小計			40	160	40	22	18	50	33	17	43	22	21	44	25	19	177	102	75
合計			105	420	110	54	56	125	72	53	118	50	68	120	59	61	473	235	238

研究科	入学定員	総定員数	1年次			2年次			3年次			合計		
			小計	本学	他学	小計	本学	他学	小計	本学	他学	小計	本学	他学
造形芸術(修士)	18	36	30	22	8	28	24	4	-	-	-	58	46	12
音楽芸術(修士)	15	30	13	9	4	19	15	4	-	-	-	32	24	8
芸術文化学(博士)	3	9	3	1	2	5	5	0	7	4	3	15	10	5
合計	36	75	46	32	14	52	44	8	7	4	3	105	80	25

合計
総合計 578

教員名簿

2023年4月1日現在

美術工芸学部／(院) 造形芸術研究科				音楽学部／(院) 音楽芸術研究科				全学教育センター			
絵画専攻	教授	知花 均	油画・凹版	教授	五郎部俊朗	テノール	教授	波平 八郎	日本文学		
	教授	香川 亮	日本画・凸版	教授	山下 牧子	メソ・ソプラノ	教授	森 達也	博物館学		
彫刻専攻	教授	高崎 賀朗	油画・孔版	教授	小杉 裕一	ピアノ	教授	高良 則子	英語学・英語教育		
	准教授	阪田 清子	油画・インスタレーション	教授	岡田 光樹	ヴァイオリン	教授	芳澤 拓也	教育学		
(院) 造形芸術研究科	准教授	喜多 祥泰	日本画	教授	林 裕	チェロ	教授	張本 文昭	野外教育学		
	准教授	関谷 理	日本画	教授	阿部 雅人	ホルン	教授	藤田 喜久	海洋生物学		
芸術学専攻	教授	砂川 泰彦	石彫 他	教授	澤村 康恵	クラリネット	准教授	城間 祥子	教育心理学		
	教授	松本 隆	テラコッタ・铸造 他	教授	塚本 一実◎	作曲	准教授	山田 浩世	歴史学		
デザイン専攻	教授	河原 圭佑	金属 他	教授	倉橋 健	トランペット	芸術文化研究所 教授 久万田 晋◎ 民族音楽学・民族芸能論 准教授 鈴木 耕太◎ 琉球文学・文化学 准教授 新田 摂子 染織工芸史 教授 森 達也* 考古学 教授 山田 聡* 陶芸 教授 名護 朝和* 染織 教授 高瀬 澄子* 日本音楽史 教授 比嘉 いづみ* 琉球舞踊 <small>◎造形芸術研究科兼任教員 □芸術文化学研究所兼任教員 *兼任教員</small>				
	講師	長尾 恵那	木彫 他	准教授	山内 昌也	テノール					
工芸専攻	助教	中島聖二郎	ミクストメディア 他	准教授	松田奈緒美	ソプラノ	芸術文化学専攻 教授 尾形希和子* 図像解剖学 教授 喜屋武盛也 美学 准教授 土屋 誠一 近・現代美術史、写真論 教授 赤嶺 雅 グラフィックデザイン 教授 仲本 賢 映像デザイン 教授 宮里 武志 環境デザイン 准教授 笹原 浩造 グラフィックデザイン 准教授 又吉 浩造 メディアデザイン 准教授 高田 浩樹 プロダクトデザイン 講師 赤塚美穂子 プロダクトデザイン 助教 大城 愛香 イラストレーション 教授 名護 朝和 染分野 教授 山田 聡 陶芸分野 教授 花城美弥子 織分野 教授 當眞 茂 漆分野 准教授 久保田寛子 織分野 教授 宇良 京子 染分野 講師 島袋 克史 陶芸分野 講師 松崎 森平 漆芸分野 助教 島袋知佳子 織分野 助手 小野 さよこ 織分野 助手 金城 宙矛 陶芸分野				
	教授	尾形希和子	西洋美術史	教授	谷本 裕△	アートマネジメント					
音楽表現専攻	教授	小林 純子	日本美術史	教授	小西 潤子	民族音楽学	音楽学専攻 教授 高瀬 澄子 日本音楽史 准教授 呉屋 淳子 文化人類学 准教授 遠藤 美奈 民族音楽学 准教授 倉橋 玲子 西洋音楽史 准教授 向井 大策 西洋音楽史 講師 神谷 武史△ アートマネジメント 教授 久万田 晋* △音楽文化専攻のみ *(院)音楽学専攻のみ ◎音楽学専攻教員				
	教授	金 恵信	東洋美術史	教授	高瀬 澄子	民族音楽学					
(院) 音楽芸術研究科	教授	喜屋武盛也	美学	教授	高瀬 澄子	文化人類学	琉球芸能専攻 教授 仲嶺 伸吾 琉球古典音楽 教授 山内 昌也 琉球古典音楽 教授 比嘉 いづみ 琉球舞踊 教授 新垣 俊道 琉球古典音楽 教授 阿嘉 修 組踊 教授 嘉数 道彦 琉球舞踊・組踊 助手 嘉数 幸雅 琉球古典音楽				
	教授	土屋 誠一	芸術学	教授	久万田 晋*	民族音楽学					
音楽文化専攻	教授	波平 八郎	日本文学、文化学	教授	久万田 晋*	民族音楽学	芸術文化学専攻 教授 尾形希和子* 図像解剖学 教授 喜屋武盛也 美学 准教授 土屋 誠一 近・現代美術史、写真論 教授 赤嶺 雅 グラフィックデザイン 教授 仲本 賢 映像デザイン 教授 宮里 武志 環境デザイン 准教授 笹原 浩造 グラフィックデザイン 准教授 又吉 浩造 メディアデザイン 准教授 高田 浩樹 プロダクトデザイン 講師 赤塚美穂子 プロダクトデザイン 助教 大城 愛香 イラストレーション 教授 名護 朝和 染分野 教授 山田 聡 陶芸分野 教授 花城美弥子 織分野 教授 當眞 茂 漆分野 准教授 久保田寛子 織分野 教授 宇良 京子 染分野 講師 島袋 克史 陶芸分野 講師 松崎 森平 漆芸分野 助教 島袋知佳子 織分野 助手 小野 さよこ 織分野 助手 金城 宙矛 陶芸分野				
	教授	鈴木 耕太	琉球文学・文化学	教授	久万田 晋*	民族音楽学					
琉球芸能専攻	教授	鈴木 耕太	琉球文学・文化学	教授	久万田 晋*	民族音楽学	芸術文化学専攻 教授 尾形希和子* 図像解剖学 教授 喜屋武盛也 美学 准教授 土屋 誠一 近・現代美術史、写真論 教授 赤嶺 雅 グラフィックデザイン 教授 仲本 賢 映像デザイン 教授 宮里 武志 環境デザイン 准教授 笹原 浩造 グラフィックデザイン 准教授 又吉 浩造 メディアデザイン 准教授 高田 浩樹 プロダクトデザイン 講師 赤塚美穂子 プロダクトデザイン 助教 大城 愛香 イラストレーション 教授 名護 朝和 染分野 教授 山田 聡 陶芸分野 教授 花城美弥子 織分野 教授 當眞 茂 漆分野 准教授 久保田寛子 織分野 教授 宇良 京子 染分野 講師 島袋 克史 陶芸分野 講師 松崎 森平 漆芸分野 助教 島袋知佳子 織分野 助手 小野 さよこ 織分野 助手 金城 宙矛 陶芸分野				
	教授	鈴木 耕太	琉球文学・文化学	教授	久万田 晋*	民族音楽学					

教職員数

2023年4月1日現在 単位(人)

	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	事務職員
現員	1	38	26	6	4	5	20
小計						80	20
総合計							100

専攻別教員数

学部等	学科等	専攻	計
美術工芸学部	美術	絵画	7
		彫刻	5
	デザイン工芸	芸術学	5
		デザイン	8
		工芸	11
小計		36	
音楽学部	音楽	音楽表現	17
		音楽文化	8
		琉球芸能	7
	小計		32
全学教育センター			8
芸術文化研究所(専任)			3
合計			79

男女別教員数

部局 職位	教授		准教授		講師		助教		助手		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
美術工芸学部	12	4	7	2	2	3	1	3	1	1	23	13
音楽学部	10	5	6	7	1	0	0	0	2	1	19	13
全学教育センター	5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6	2
芸術文化研究所	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1
計	28	10	15	11	3	3	1	3	3	2	50	29

教育組織・教育分野・研究領域

美術工芸学部										
美術学科					デザイン工芸学科					
絵画専攻	定員10名	彫刻専攻	定員5名	芸術学専攻	定員6名	デザイン専攻	定員20名	工芸専攻		定員24名
油画	日本画	塑造 木彫 石彫 金属 テラコッタ ミクストメディア		美学 芸術学 日本美術史 東洋美術史 西洋美術史	生活デザイン 産業デザイン 環境デザイン グラフィックデザイン 映像デザイン エディトリアルデザイン		工芸 二年生後期に各分野に分かれます。			
油画	平面						染 紅型(筒・型) 型染、夾纈 捺染	織 絣織、浮織 綴織、組織 素材	陶芸 成形、陶土 磁土、焼成 薪窯 ガス窯 電気窯	漆芸 漆精製 素地 髹漆、加飾 乾漆
平面	模写									
版画	絹本									
映像・写真表現 空間表現										

専門教育科目(必修・選択)

全学教育科目(リテラシー科目(日本語、情報、外国語)、一般教養科目(人文科学、社会科学、自然科学)、

造形芸術研究科(修士課程)											
環境造形専攻			生活造形専攻						比較芸術学専攻		
絵画専修		彫刻専修	デザイン専修		工芸専修				比較芸術学専修		
油画 研究室	日本画 研究室	彫刻 研究室	視覚伝達 デザイン 研究室	生活環境 デザイン 研究室	染 研究室	織 研究室	陶磁器 研究室	漆工 研究室	美学・芸術学 研究室	美術史 研究室	民族芸術 文化学研究室
油画 平面表現 映像・写真表現 版表現 空間表現	日本画	塑造 テラコッタ 木彫 石彫 金属 ミクストメディア	視覚伝達 デザイン	生活環境 デザイン	染 (型染 紅型)	織 (織研究 織制作)	陶磁器 (陶磁原料研究 陶磁器研究)	漆工 (日本漆芸 琉球漆芸)	比較芸術学 比較美学 日本・東洋・ 西洋の美学・ 芸術学	日本・東洋・ 西洋の美術史学	琉球文学 民族文化学 日本文学 比較文化学 アジア工芸史

関連科目

芸術文化学研究科														
比較芸術学研究領域						民族音楽学研究領域								
比較美学・芸術学			芸術批評史			民族芸術文化学			音楽史			民族音楽学		

伝統芸能部門						伝統工芸部門					
--------	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--

学年暦

4月	3日	学年開始及び前学期開始	7月	1日～2日	博物館実習事前指導・実務実習
	4日	入学式		3日	教育実習事後指導(6月教育実習終了者)
	3日～10日	入学前既修得単位認定申請期間		17日	通常授業日
	3日～14日	前学期授業科目履修登録期間		25日～31日	前学期期末試験
	3日、4日、5日～6日	オリエンテーション(学部・大学院生) (4日全学オリエンテーション、5日及び6日全学履修相談(新入生対象))		29日～8月3日	サマースクール(美術工芸学部)
	5日	美術工芸学部オリエンテーション、5日及び6日音楽学部オリエンテーション		30日	オープンキャンパス(美術・音楽)
	7日	前学期授業開始		下旬	前学期集中講義履修取消期間
	7日	介護等体験実習事前指導			
	15日	博物館実習オリエンテーション・見学実習			
	17日～24日	前学期授業科目履修登録追加・削除期間			
27日～28日	教育実習事前指導(1限～3限)				
5月	1日、2日	特別休講日	8月	8月1日～	夏季休業
	8日～9日	前学期授業登録科目取消期間		9月10日	
	8日～10日	教育実習事前指導(1限～3限)			
	11日～12日	定期健康診断(11日当蔵キャンパス、12日崎山キャンパス)			
	15日	開学記念日(休業)			
19日	教育実習3年次ガイダンス				
6月	1日～14日	高等学校教育実習(高等学校教育職員免許状取得予定者)	9月	2日～3日	大学院造形芸術研究科入試(9月試験)
	11日	オープンキャンパス(美術・音楽)		5日～27日	中学校教育実習 (中学校及び高等学校教育職員免許状取得予定者)
	15日～16日	前学期授業登録科目取消期間②		11日～28日	前学期集中講義、自由研究及び補講期間
	23日	慰霊の日(休業)		12日～21日	成績開示日及び異議申立期間(前学期成績)
	下旬～7月上旬	前学期集中講義履修登録期間		22日～9月29日	後学期授業科目履修登録期間
			30日	前学期終了	

音楽学部								
音楽学科								
音楽表現専攻 定員23名					音楽文化専攻 定員7名		琉球芸能専攻 定員10名	
声乐コース	ピアノコース	弦楽コース	管打楽コース	作曲理論コース	沖縄文化コース	音楽学コース	琉球古典音楽コース	琉球舞踊組踊コース
独唱 重唱 オペラ 合唱	独奏 重奏 伴奏	独奏 室内楽 オーケストラ 弦楽合奏	独奏 室内楽 オーケストラ 管打合奏	創作 編曲 音楽理論	沖縄を中心とする 音楽、舞踊の研究 アートマネジメント	日本音楽史 西洋音楽史 民族音楽学	歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊

専門教育科目(必修・選択)

芸術教養科目、沖縄の文化に関する科目、健康・運動理論科目、教育の基礎的理解に関する科目、資格課程(教職課程、博物館学課程)

音楽芸術研究科(修士課程)						
舞台芸術専攻 定員4名		演奏芸術専攻 定員8名			音楽学専攻 定員3名	
琉球古典音楽専修	琉球舞踊組踊専修	声乐専修	ピアノ専修	管弦打楽専修	音楽学専修	作曲専修
歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊	独唱 オペラ	独奏 重奏 伴奏	独奏 室内楽 オーケストラ	音楽史 民族音楽学 舞踊芸能論	創作 編曲 楽曲分析

関連科目

(博士課程) 定員3名	
民族芸能論	芸術表現研究領域 造形芸術 音楽芸術

芸術文化研究所	
	芸術文化学部

10月 1日 後学期開始
2日 後学期授業開始
3日~10日 後学期授業科目履修登録追加・削除期間
9日 通常授業
11日~19日 成績開示日及び異議申立期間(前学期集中講義成績)
13日 博物館実習ガイダンス
21日~22日 大学院音楽芸術研究科入試
25日~26日 後学期授業登録科目取消期間
31日~11月1日 芸大祭準備期間(休講)

2024年 9日 後学期後半授業開始
1月 13日~14日 大学入学共通テスト
29日~2月2日 後学期期末試験

11月 2日~3日 芸大祭、4日片付け
11日 教育実習事後指導(9月教育実習終了者)
18日~19日 学校推薦型選抜(音楽学部、絵画・芸術学・デザイン・工芸)
23日 通常授業日
下旬 後学期集中講義履修登録期間

2月 3日~4日 大学院造形芸術研究科入試(2月試験)
5日~22日 後学期2月集中講義、自由研究及び補講期間
8日~11日 大学院芸術文化学研究科入試
9日~14日 成績開示日及び異議申立期間(4年次生)
14日~18日 美術工芸学部・大学院造形芸術研究科卒業・修了展
25日~27日 入学者一般選抜(前期日程)

12月 1日 教育職員免許状一括申請説明会
1日 学校推薦型選抜合格発表(音楽学部、絵画・芸術学・デザイン・工芸)
2日~3日 博物館実習見学会・報告会・事後指導
上旬 後学期集中講義履修取消期間
12日~13日 後学期授業登録科目取消期間②
20日~1月7日 冬季休業(12/20~22 通常授業日)
24~28日 後学期12月集中講義
31日~1月3日 全面入構禁止期間(学生・教職員)

3月 1日~31日 春季休業
5日 一般選抜(前期日程)合格発表
7日~15日 成績開示日及び異議申立期間(4年次生以外)
12日~14日 入学者一般選抜(美術工芸学部 後期日程)
18日 卒業式・修了式
21日 一般選抜(後期日程)合格発表
下旬 令和6年度前期履修登録期間(次年度新入生除く)
31日 後学期終了及び学年終了

美術工芸学部



美術工芸学部 HP

【美術学科】

絵画専攻
彫刻専攻
芸術学専攻

【デザイン工芸学科】

デザイン専攻
工芸専攻
染分野 織分野 陶芸分野 漆芸分野



教育研究上の目的

美術工芸学部は、伝統芸術文化の継承と創造的芸術の表現を専門的かつ横断的に教授研究して、優れた芸術家をはじめとする社会的に活躍できる人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。(学則第4条の1号)

美術工芸学部の教育方針

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもちろん、造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を見出せる作家や研究者などの専門家の養成をめざします。

高い技術や専門知識、総合的かつ国際的な視野を身につけ、次代を担う個性的で優れた人材を育成します。

◆ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、大学ディプロマ・ポリシーを基本に、加えて以下に掲げる学修成果を獲得し、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 美術・デザイン・工芸の分野における基本的な知識を体系的に理解している。
- 2 自己の創造的活動を歴史、文化、社会、自然等と関連付けて考察できる。
- 3 専攻分野の専門的な技能と研究能力を身につけている。
- 4 卒業後も主体的に創作、研究を継続し、それらを社会に発信する意欲と能力を備えている。

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 専門分野の実技と理論において、必修科目を中心とした体系的な授業科目の編成
- 2 専門教育の4年間にわたる段階的履修
- 3 自らの学修計画に基づき主体的に履修できる選択科目の編成
- 4 大学の学修活動全体を通じて汎用的基礎能力を育成する教育の実施
- 5 現代社会における美術・デザイン・工芸の役割を認識し、地域との連携を図り、社会との関係を学ぶ教育の実施

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、作品・論文・レポート・筆記試験等により行います。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもとより造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を担える作家、研究者、教育者などの専門家を育成するため、専門的素養と総合的知識、国際的視野を身につける教育を行います。

【求める人材】

美術工芸学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び美術工芸学部の教育の理念をよく理解し、大学での学習に必要な基礎的な知識と技能を備えている人
- 2 美術・デザイン・工芸分野における制作や学習において、自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を備えている人
- 3 美術・デザイン・工芸の分野において作家、研究者、教育者などの専門家になる意欲のある人
- 4 芸術文化の多様な背景を理解し、人とのコミュニケーションを大切に考え、社会性を認識し主体性を持って他者と協働できる人
- 5 沖縄固有の芸術文化や自然等に関心があり、沖縄で学ぶことに意義を見出せる人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

美術工芸学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、「学力の3要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性）」を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに総合点の上位から合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、実技検査、小論文、面接（プレゼンテーションを含む）を実施し、専門分野における基礎的な能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 2 学校推薦型選抜では、絵画・デザイン・工芸各専攻は課題作品、小論文の提出と面接（プレゼンテーションを含む）を、芸術学専攻は小論文の提出と面接、口述試験を実施し、大学での学習に必要な知識、技能、専門分野における基礎的な能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願者本人の記載する資料等を活用します。



絵画専攻



絵を描き心の眼を養う

● 油画 ● 日本画

絵画専攻 HP

■ アドミッション・ポリシー

人は生きる指針、共存する証として、どのような時代においても絵を描き続けてきました。高度に情報化し、グローバル化した現代の社会環境においても、自分自身の現実感や存在感を測り、イマジネーションを共有する手段として、普遍的な絵画表現の意義や社会的役割を問うことは、とても重要と考えます。

絵画専攻では、亜熱帯に位置する沖縄の歴史・芸術文化・環境・自然に理解と愛情を持ち、自らの専門性と創作力を高めるために、造形教育の専門性に対して探究心を持って取り組み、他者とのコミュニケーションを積極的に育む人材を求めています。

教員からのメッセージ



喜多祥泰 准教授

絵画専攻の所在する首里当蔵キャンパスからは、南国の澄んだ海と日差しが感じられます。絶え間なく変化し続ける首里の空は、ここで学ぶすべての人の心に寄り添ってくれます。4年間を通して油画、日本画ふたつの分野において充実したカリキュラムが設定されており、北海道から沖縄まで、様々な出自の学生が集まり、深い専門性と幅広い内容を学びます。

沖縄には、多様な文化と価値観が豊かな自然の中で積み重なっています。この地でこれまでも多くの芸術家がすばらしい作品を創造してきました。思いもしないことが起こり続ける世相ですが、大丈夫です。東アジアの文化を色濃く残す沖縄で技術と感性を育み、柔軟で健やかな精神を得て、まだ誰も知らない明日へ世界へ歩んでいきましょう。

専任教員 絵画

知花 均 教授 (油画・凹版)
香川 亮 教授 (日本画・凸版)
高崎 賀朗 教授 (油画・孔版)
阪田 清子 准教授 (油画・インスタレーション)
喜多 祥泰 准教授 (日本画)
関谷 理 准教授 (日本画)
本村佳奈子 助教 (油画・木版)



■ カリキュラム・ポリシー

存在価値の多様化や均質化するグローバル情報社会にあって独創的な画家や造形作家、教育者に求められる基本的な実技能能力（観察、描写、素材応用、プレゼン）を深める教育を行います。多様な絵画・造形表現の理解と課題制作による学修から美的価値観を涵養する中で個性を伸ばし、展示や講評、学外活動などを通じ他者理解と社会性を育みながら、学生の独自性を尊重した教育を目指します。個性的な表現活動を支える身体的技術力と思考力、教養と専門性の深度を総合的に養い、卒業後も創作活動を継続し美術の社会的役割に反映しうよう自ら課題を創出し、独創的な表現を探求する能力を育成します。



日本画制作風景



油画素描



凸版実習



日本画絹実習



日本画裏打ち実習



油画制作風景

油画、日本画の授業概要

油画分野では素描、ドローイング、油彩、素材応用表現をカリキュラムの土台とし、版表現、映像表現、インスタレーションやパフォーマンス等の実習を通して現代に対応する感性、表現力を養います。2、3年次の進級展を通して自己が創出する表現テーマを探求し、段階的に卒業制作へ向かいます。

日本画分野では素描と伝統的な材料技法の基本を理解することから始め、実習を通して模写、絹本、箔、裏打ち等を習得し、課題制作として人物、風景、自由制作などで修練を重ね、現代における表現研究の下に自己のテーマに基づいた卒業制作に向かいます。

両分野の共通の授業としては、学外演習（離島フィールドワーク）や古美術研究（京都、奈良を主とした研修旅行）、写真（アナログ）や版画（凹凸孔）実習、絵画特論Ⅰ、Ⅱ授業として美術作家、キュレーター、評論家による集中講義があります。

絵画専攻の必修科目

- 絵画基礎
- 空間デザイン
- 日本画Ⅰ～Ⅳ
- 絵画特論Ⅰ・Ⅱ
- 箔
- 古美術研究
- 装丁実習
- 彫刻（絵）
- 油画Ⅰ～Ⅳ
- デザイン（絵）
- 染
- 工芸（絵）

玉城 咲恵 (たましろ さえ)

(沖縄県出身)
大学院 造形芸術研究科
環境造形専攻 絵画専修日本画2年



私は本学に入学して初めて日本画について学び、より深く自分の表現を追求してみたいと思い大学院に進学しました。高校生の頃は大学で絵画を本格的に学ぶ事に対して決心が付かず進路に迷いましたが、入学当初から今まで充実した毎日を過ごすことができ、とてもいい選択ができたと思っています。

本学は少人数制なので生徒一人ひとりが先生方の丁寧な指導を受け、広々としたアトリエで自由に制作に打ち込むことができます。また、専門分野以外にも版画や写真、彫刻やデザインに工芸など、様々な分野の授業を受ける事もできるので視野を広げる機会が多いことも魅力のひとつです。自分の好きなことに夢中になれる環境で制作に励んだ本学での6年間は、将来振り返ったときに一番輝いて見えるだろうなと思えるくらい豊かで楽しい時間でした。

彫刻専攻

今だからこそ、
自分の手で作る力を



彫刻専攻 HP



■アドミッション・ポリシー

彫刻専攻では、将来、彫刻を中心に造形芸術の様々な分野で活躍し社会に貢献できる作家、教育者など専門家になれる人材の育成を目指します。そのために、学部アドミッション・ポリシーを基本に、基礎的な観察力、造形力、立体表現能力を備え、自己を深く見つめ自然や社会との関係を思索し、何よりも造形行為と自己の将来を肯定的に重ね合わせることでできる人を求めています。

専任教員 彫刻

砂川 泰彦 教授 (石彫他)
 松本 隆 教授 (塑造・テラコッタ・鋳造・乾漆他)
 河原 圭佑 准教授 (金属他)
 長尾 恵那 講師 (木彫他)
 中島聖二郎 助教 (ミクストメディア 他)

教員からのメッセージ



松本隆 教授

特色ある文化、雄大な自然…この沖縄という地で芸術を学ぶ利点は、他では経験できない環境にあります。植物が環境によってその育ち方が変わるように、沖縄の環境は、学生の感性や発想に大きく影響することでしょう。

授業では基礎的な実習から、専門的な素材による個々の表現に至るまで、少人数制による指導体制によって、個々が潜在的に持つ能力を最大限発揮できるようサポートします。今日では、彫刻も多様化の時代に突入し、様々な表現が生まれつつあります。アジア、そして世界といった国際的な視野も見据え、これからの彫刻を共に探求しませんか。

■ カリキュラム・ポリシー

将来、専門家として創作活動を行うのに必要な基礎学修の中で、個性の伸長を期して主体性・独創性を重視した教育を行います。また、学内外での実践的、体験的プログラムにおいて、学生の社会性と協働精神の育成を図ります。

彫刻専攻の教育課程は、導入から専門教育まで単に造形技術の修練のみにとどまらず、将来にわたって自ら主体的にテーマを見出し、独創的な表現の探求を続けて行くための基礎的な能力育成を目的としており、学部カリキュラム・ポリシーを基本に、教養・専門、実技・理論教育を一体的、総合的に捉えています。学修成果は、学修目標の達成度を基準に、課題等の成果物とそれに至る試行、造形思考の深さ、説得性などによって総合的に評価します。



木彫実習



金属実習



テラコッタ実習



鑄造実習



伊藤 銀 「椰子蟹」



小城 亜香音 「たまご」



山崎 竜大 「Nita」

教育課程の概要

彫刻専攻では、学生個々の創造能力育成に主眼を置き、1年次から3年次前学期を通して塑造、石彫、木彫、金属、鑄造、テラコッタ等の基本的な技法と理論を修得します。また、古典から近現代にいたる彫刻とその周辺の歴史を学びつつ、3年次後学期から自己のテーマに基づいて、より実践的な展示発表を前提とした制作を行い、4年次では、前・後学期ごとに明確な計画を立てて制作し卒業作品とします。

卒業生の8割は大学院へ進学しています。

教育環境

彫刻専攻の教室・アトリエは1年次から大学院まで、学年を越えた共通の学習・制作の現場となっており、下級生は上級生との交流の中で多くを学ぶ環境にあります。

また、大学の社会の関わりを実践的に学ぶため、市町村との共催による学外での演習、展覧会、シンポジウム等を行い、さらに広く国際的な視野を培うため、海外の芸術大学や卒業生の留学先等との国際交流を積極的に進めるなど、活気に満ちた教育環境づくりに専攻を挙げて取り組んでいます。

彫刻専攻の必修科目

- 彫刻Ⅰ～Ⅳ
- 古美術研究
- 構成
- 絵画(彫)
- 工芸(彫)
- 彫刻特論Ⅰ・Ⅱ
- デッサン
- 鍛造・鑄造
- デザイン(彫)
- 美術解剖学Ⅰ(骨)

古藤 未来 (ことう みく)

(大阪府出身)
彫刻専攻 4年



本学は沖縄の地に立っているため、今までとは全く違った気候や動植物に触れて大変刺激になっています。彫刻専攻は少人数制なので、制作スペースを広く使用することが出来ており、大きな作品を作ろうと思っても安心だと思います。

学部のカリキュラムは、彫刻で使用する素材の基礎的な知識や技能を身に付け自分にあった素材を探す。そしてそれぞれ専門の先生に指導を頂きながら自身の表現を見つけていくことになります。自分の中で作りたい作品のイメージが定まっていれば、その実現のために必要なことを先生方がご指導下さり、自分の作りたいものを大切に制作に取り組んでいます。

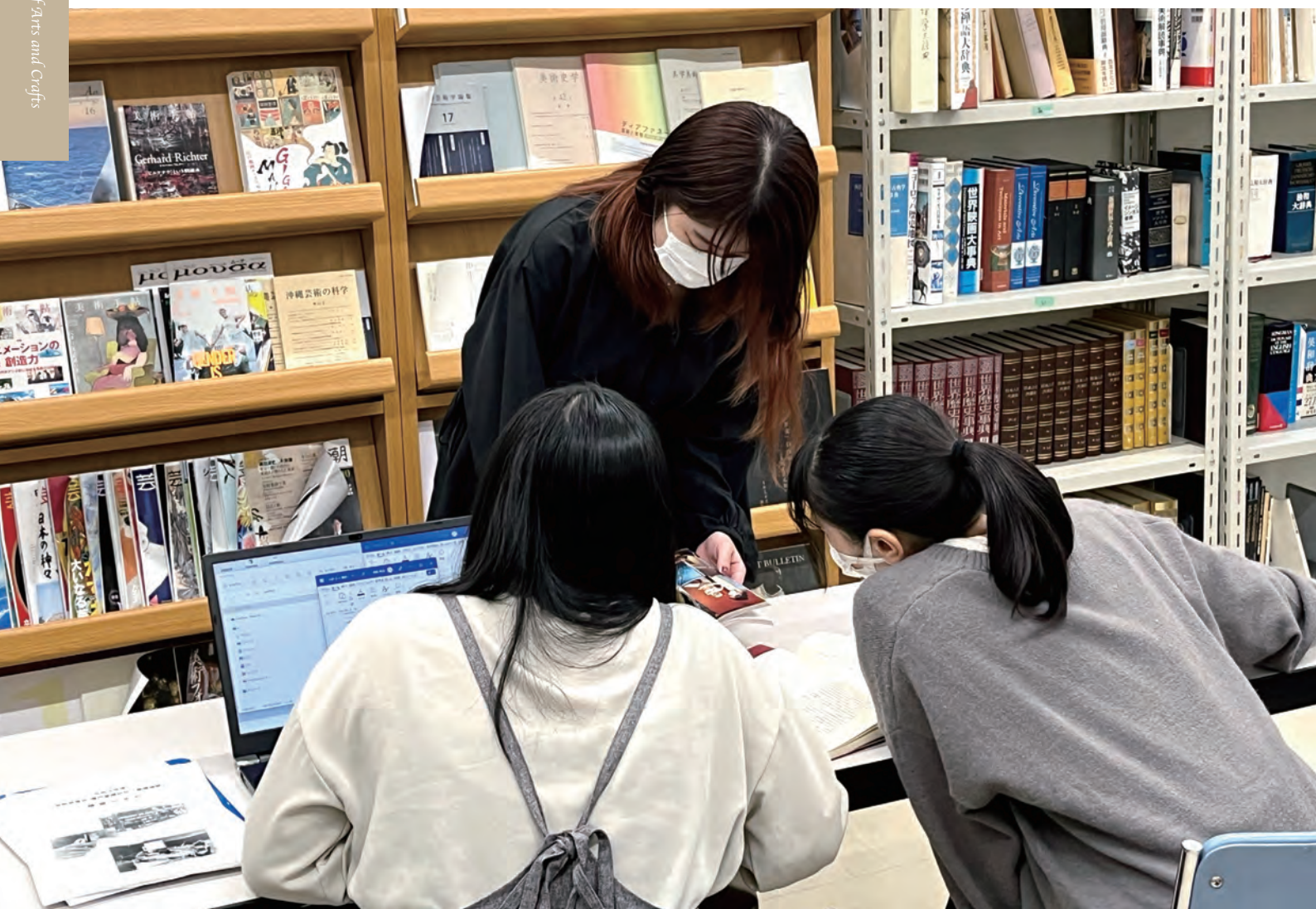
自身から行動できる人にとっては、この大学での学びは確実に自身を成長させ、充実した時間になると思いますので、この沖縄で彫刻と一緒に学びましょう。

芸術学専攻

芸術や美とは何かを追求し、
批評精神を養う。



芸術学専攻 HP



■アドミッション・ポリシー

芸術学専攻は沖縄県の特色ある文化と歴史を尊重し、日本にのみとどまらず国際的な教養を備え、芸術の様々な領域で活躍できる人材の育成を目指します。

この目的のため、本専攻では以下の人材を求めます。

1. 多様な芸術作品や芸術に関する現象に興味を持ち、それらについての知見や情報を進んで収集する意欲を持つ人。
2. 芸術についての知識や思想を「言葉」によって表現し、他者と知的なコミュニケーションを交わすことに興味がある人。
3. 現代社会における芸術のあり方を考え、その未来を展望することを目指す人。
4. 芸術作品を積極的に鑑賞し、また制作や芸術運動への参加を通じて、具体的な経験に即した思考を行える人。

教員からのメッセージ



金恵信 教授
(きむ へしん)

考えながら感じる芸術

芸術学専攻は、「沖縄で芸術を学び、世界を眺める」学びと実践の場です。ここには、芸術表現そのものを体験する実技、芸術作品の歴史、哲学、理論を考察する美術史、美学、芸術学の授業、成果を見せる展示企画と研究発表の場が用意されています。大きな窓から首里城が見える芸術学専攻専用の自習室で沖縄の芸術文化の風と空気を感じながら、古代から現代までの東西の芸術を学び、人生の次なるステージへの設計をしてみませんか。

専任教員 芸術学

尾形希和子 教授 (西洋美術史)
小林 純子 教授 (日本美術史)
金 恵信 教授 (東洋美術史)

喜屋武盛也 教授 (美学)
土屋 誠一 准教授 (芸術学)

■ カリキュラム・ポリシー

芸術学専攻では、芸術に関する論文を書くことの出来る学問的な力を備えた学生の育成を主要な目的としています。研究の対象となる分野は、沖縄の文化芸術のみならず美学・芸術学・日本美術史・東洋美術史・西洋美術史と幅広く設定され、学生の個性に応じて、自分に相応しい学問領域を選択できるようになっています。

また、芸術大学の学生にふさわしい実技と理論の調和を目指すことも大切な目的の一つです。語学の選択範囲も広く、英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・ラテン語・漢文などの他に、日本語の歴史的文書を読むための授業科目を受講できます。

1年次においては実技と理論の学習が半々になるようにカリキュラムが構成されていますが、2年次以降では、理論と歴史や語学などの学習が中心となります。2年次における「学外研究」で多くの芸術作品に触れ、芸術と社会とのかかわりを考える機会を得ることによって、自分の目指す分野が明確になっていきます。3年次で専門分野の研究を深め、4年次の「卒業論文」において、学生はそれまで大学で学んだ知識と陶冶された感性を有効に用いて一つの研究課題の下に論文を執筆することになります。

さらに、就学中に博物館学課程や教職課程の科目を受講することで、学芸員資格や教員免許状を取得することができるように配慮されています。



授業風景



実技研究

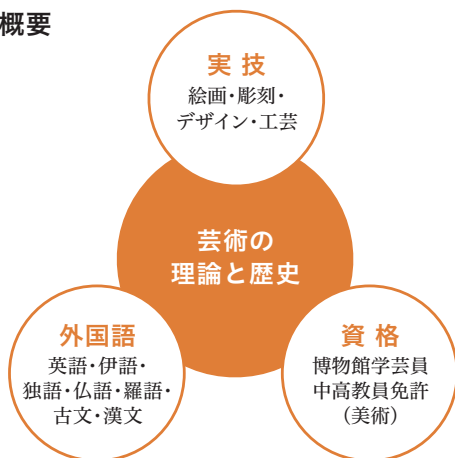


学外演習



学外研究

教育課程の概要



芸術学専攻の必修科目

- 実技研究 ●基礎演習 ●学外研究 ●卒業論文
- 素描 ●絵画(芸) ●彫刻(芸) ●デザイン(芸) ●工芸(芸)

小野 みゆき (おの みゆき)

(長野県出身)
大学院造形芸術研究科
比較芸術学専修2年



私は、本学の学部を卒業し、20年以上社会人として様々な仕事に就いた後、大学院を受験しました。長野で生まれ育った私は、沖縄の風土の中でこの地域の風習や文化を感じながら過ごした学部の4年間で、環境も含めた相違に出逢えたことが貴重だと感じていたからです。今改めて沖縄へ戻り、学部時代の研究を継続することができ、さらに多くの相違に気づき新たな視点を育むことができていると実感しています。

社会の縮図ともいえる沖縄の歴史文化や現状を感じながら、この大学院で「比較芸術学」を学ぶことは、日本だけでなく世界を見通す視座を構築することにつながり、国や地域などのアイデンティティについて、さらには種々の世界的な社会問題についても、直に肌で認識できると改めて感じています。多くの人に沖縄で学ぶという、他では得難い体験をしてもらいたいと心から思います。

デザイン専攻

南の島でデザインを学ぼう。

■カリキュラム・ポリシー

デザイン専攻では、専門領域の垣根を取り払い、様々なデザイン分野の中から学生が主体的に授業を選択できるようにカリキュラムを構成しています。

デザイン専攻のカリキュラムの構成に関しては以下の6点に集約できます。

1. 伝統工芸の基礎的研究、地場産業や地域の文化に強く根ざしたデザインを育てる。
2. 情報社会への融合とそのための取り組みを行う。
3. 国際的視野に立った専攻カリキュラム編成を行う。
4. 時代に合った地域社会、経済との連携と就職に結びつくカリキュラム編成を行う。
5. 主体的な向学心を育成するために、多くのデザイン科目を自ら選択できる。
6. 社会人としての人格形成、社会性のある人物を育てる。

また、各学年に学ぶ主なこととして、1年生では、デザインの基礎を学び、デザインを学ぶ者としての自覚を促す。2年生では、デザイン機器と素材の研究をし、合わせてグループ研究を行いながら、3年生では、公共物のデザイン等を通して、デザイナーとしての社会的役割を確認。4年生では、個別の卒業制作を通してデザイナーとしての個人的資質の追究を行う。この4年間の課程を通じて、市場調査方法、社会から支援を得る方法、企画の的確な提示方法等を学び、デザイナーとしての資質を完成させます。

デザイン専攻は、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

■アドミッション・ポリシー

デザイン専攻は、日本最南端に位置する沖縄県の特色ある文化を、誇りを持って受け継ぎ、伝統や工芸の基礎的研究を基に、地域の経済・産業や文化活動との連携を図りながら、今日的デザインの課題を理解し、未来的志向に立つ高度な情報技術と国際的な視野を持つ人材の育成を目的とします。以上の目的に賛同し、主体的な学習能力を養い、専門分野に片寄らない健全な社会人となれるような人物を求めています。

教員からのメッセージ

よく、デザインは視覚的刺激的の多い文化的な大都会で学んだ方が良い、という声を耳にします。ところが本学はその対極にあります。

日本で最も南に位置するこの芸大のデザイン専攻では、その亜熱帯という特殊性から独特な色彩感覚を持った地域性の中で、また東アジア、東南アジア、太平洋の島嶼国、環太平洋の国々などの間に位置する特殊性から多文化の影響を比較的受けやすい環境の中で、デザインを学んでいます。

また、それらの強大な文化圏から一定の距離があることにより、アクセクしない、ゆったりとした静かな環境で、私たちはデザイン研究への思索を深めているところです。

感染症の大流行も治まりつつあり、沖縄県立芸大も日常を取り戻しつつあります。これから東京や台北、ソウル、ホノルル、バンコック、バリなどを感じながら、那覇市首里でデザインを学び始めるのもまた良いと思うのです。



仲本 賢 教授

専任教員 デザイン

- | | |
|--------|-----------------|
| 仲本 賢 | 教授(映像デザイン) |
| 赤嶺 雅 | 教授(グラフィックデザイン) |
| 宮里 武志 | 教授(環境デザイン) |
| 笹原 浩造 | 准教授(グラフィックデザイン) |
| 又吉 浩 | 准教授(メディアデザイン) |
| 高田 浩樹 | 准教授(プロダクトデザイン) |
| 赤塚 美穂子 | 講師(プロダクトデザイン) |
| 大城 愛香 | 助教(イラストレーション) |

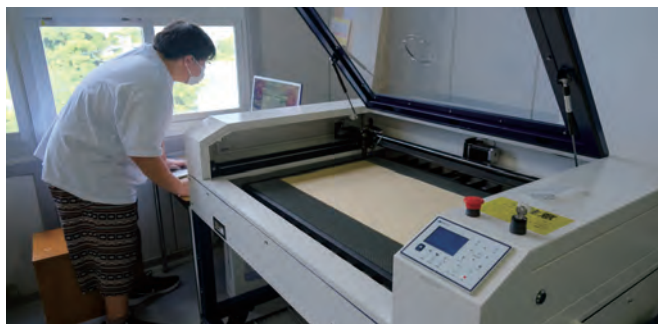
教育課程の概要

デザイン専攻は、1年次に造形基礎を通して描写力・構成力を養い、2、3年次では分野的領域を選択制度により、専門的な実習・演習・講義を行います。さらに、3年次のインターンシップ（企業実習制度）は産学の結びつきを意識し、実社会との接点の有効性を期待しています。4年次では、各学生が独自のテーマ。



生活デザイン

生活道具としての器具・機器の開発や改良に関する造形的学習をします。



産業デザイン

情報、生産、流通などを通して、製品計画について学習します。



環境デザイン

公共空間における様々な生活装飾や空間の造形的学習をします。



グラフィックデザイン

広告やサイン計画を通して、レイアウト、イラストレーション、レタリング等の学習をします。



メディアデザイン

アニメーション、絵本、キャラクター、Webなどの様々なメディアを通して表現方法を学習します。



映像デザイン

写真、ビデオ、CGを中心、映像表現を学習します。

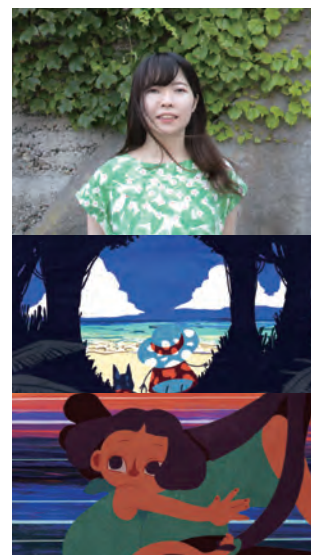
デザイン専攻の必修科目

- デザインⅠ～Ⅳ
- 木工芸基礎
- 立体造形(デ)
- 素描(デ)
- 色彩構成
- 空間構成
- デザイン特別演習
- 学外研究
- 絵画(デ)
- 彫刻(デ)
- 工芸(デ)

福地 明乃 (ふくじ あきの)

(沖縄県出身)
アニメーション作家/イラストレーター
2016年 沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 デザイン工芸学科 卒業
2018年 東京藝術大学 大学院研究科
アニメーション専攻 修了
現在はTVアニメやMVなどを手掛ける傍ら、挿絵やパッケージイラストなど
アニメーション作家、イラストレーターとして幅広く活動中

自分の可能性を発見する場所
本学は、グラフィックデザインやプロダクトデザイン、様々な領域を広く学べるので、制作を通して自分の知らない新たな可能性に出会える環境です。私は絵本作家を志して入学しましたが、映像の授業でアニメーションの面白さや奥深さに触れ、将来の選択肢の幅が更に広がったと感じています。学生同士でも様々なデザインの領域を得意とする生徒が多く、多くの刺激をもらいながら伸び伸びと制作ができる楽しい大学生活を過ごしました。自分の制作した作品が社会にどのように影響を与えるのか、その作品の意義などを深く学ぶきっかけを多く与えてくれた場所なので、今でもその経験や学びを活かしながら日々お仕事をしています。



工芸専攻

感性を磨き、
新しい伝統を創造する。



■アドミッション・ポリシー

- ・沖縄固有の文化、また広く地域の芸術文化に関心があり、将来工芸作家、教育者、研究者等専門家として活躍できる人。
- ・工芸技術の習得及び研究に興味があり、意欲的に作品制作に取り組み、感性を磨き、他とのコミュニケーションを密にして、自ら積極的に学び、自己形成に努力できる人。
- ・芸術文化、とりわけ伝統工芸、伝統文化の継承、発展に関心があり、グローバルな視点で沖縄の工芸文化研究に意欲のある人。

教員からのメッセージ



名護 朝和 教授

自然由来の材料や素材を多く使う工芸は、古くから自然環境に関心を持ち、持続可能な工芸品を作ってきました。いま世界各国では、サステナブル社会の実現に向けて、様々な目標を立てて取り組んでいますが、工芸制作においては今も昔もその精神性は変わらず大切にしています。

工芸専攻では、染、織、陶芸、漆芸の分野を学ぶことができ、自然豊かで充実した環境の中、感性を磨き、広い視野に立ち、社会で活躍できる人材を育成しています。長引く苦境も終わろうとしています。一緒に新しい時代の工芸表現を目指していきましょう。

専任教員 染・織・陶芸・漆芸

[染分野]	[織分野]	[陶芸分野]	[漆芸分野]
名護朝和 教授	花城美弥子 教授	山田 聡 教授	當眞 茂 教授
宇良京子 講師	久保田寛子 准教授	島袋克史 講師	松崎森平 講師
	島袋知佳子 助教	金城宙矛 助手	
	小野さやこ 助手		

染分野



■カリキュラム・ポリシー

染分野では、紅型に代表される型表現を基礎とした様々な染色技法を習熟することによって現代社会に発信・展開する力を身につける教育を主眼としています。紙漉・琉球藍研究等を通して素材の知識を深め、型紙研究、着物制作において造形力を高めるカリキュラムです。

技術力に裏打ちされた創造性豊かな染色表現ができる人材育成を目指しています。

織分野

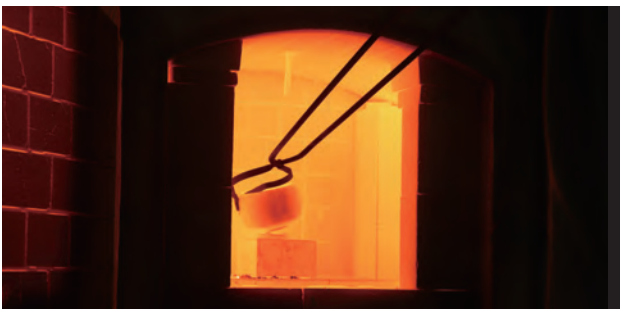


■カリキュラム・ポリシー

織分野では、絣や浮織技法を用いた織制作をはじめ、沖縄特有の植物繊維の糸作りなど天然素材研究を行います。多様な専門技術や表現方法を学び造形表現への展開を図り、個性のある創作へと応用、展開を行います。

そして、織を通して沖縄の自然や文化、社会との関わりを模索し、自己の将来を明確に展望できる人材の育成を目指しています。

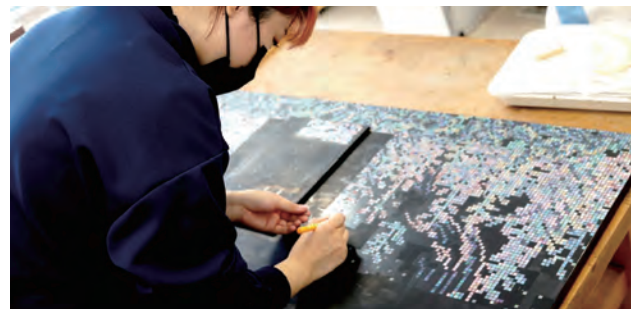
陶芸分野



■カリキュラム・ポリシー

陶芸分野では、素材、思考、技術の3つのファクターの相互関係や連動性をカリキュラムの根幹として考えています。陶という可能性を秘めた素材を知覚することによって創造するという欲求が生まれ、それと連動するように思考が始まり、その思考を具現化させるために技術や造形力が必要となります。学部ではこの3つのファクターの相互関係や連動性の理解を促し、様々なカリキュラムを通して陶でできる多角的な表現力・造形力を養い、それを社会に対し発信できる人材の育成を目指しています。

漆芸分野



■カリキュラム・ポリシー

漆芸分野では、琉球漆芸の技法や表現を吸収するとともに、幅広く日本漆芸全体を学ぶことを基礎とした上で各自の個性を伸ばす教育を目標としています。独自のカリキュラムを通して、創作活動を実践していく専門性を習得することと同時に就職などの多様な進路にも対応し、現代社会に貢献できる「人間力」を身につけることも目指しています。創造の柱となる「素材・技術・表現」を3要素として「歴史・科学・社会」とリンクしながら総合的なバランスの良い教育を展開していきます。

教育課程の概要

1年次から2年次前期まで美術全般を幅広く学ぶことで工芸専攻の基礎力を養うと同時に工芸専攻の4分野(染・織・陶芸・漆芸)の実習を通し、工芸制作の基礎を学びます。

2年次後期からは4分野に分かれ、専門的に素材の知識、技法や表現を3年次まで学び、学部の集大成として4年次の卒業制作へと進みます。

工芸専攻の必修科目

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| ● 描写 | ● 陶芸Ⅰ～Ⅲ | ● 染織特別演習 |
| ● 色彩 | ● 窯業化学 | ● 漆芸Ⅰ～Ⅲ |
| ● 立体構成 | ● 陶芸特別演習 | ● 漆芸科学 |
| ● 工芸Ⅰ・Ⅱ | ● 染Ⅰ～Ⅲ | ● 漆芸特別演習 |
| ● 立体造形(工) | ● 織Ⅰ～Ⅲ | ● 絵画(工) |
| ● 版画 | ● 繊維科学 | ● 彫刻(工) |
| ● デザインと素材 | ● 染色化学 | ● デザイン(工) |
| ● 古美術研究 | | |

染分野教育環境

染分野には、着物制作専用の引染工房があり、3年次の課題で全員が着物を染めます。また、タペストリーやパネル等の大きな作品を染める工房もあります。共同の施設として、講義室、染場、外部作業場、コンピュータ室等もあり、充実した環境が整っています。



引染工房



2年生「古典紅型(型)」



2年生「古典紅型(筒)」



3年生「着物制作」



上原あさひ「鉄仙花」



仲宗根萌「辿り着いた場所で」



渡嘉敷鈴奈「溢れて、流れて」

織分野教育環境

織分野では、一人一台織機完備の織工房をはじめ、糸染めや染色実験を行う染場や外部作業場、撚糸機を備えた織機械室、意匠設計を行うコンピュータ室、素材研究に必要な芭蕉畑等、制作・研究環境の充実を図っています。



織工房



着物ファッションショー



久場 香苗「ロマンはそこに在る」



新垣 萌々
「手花織打掛衣装「猫」」



與座 ジョンロパート
「縁宿る」

屋比久 瑞希

(やびく みずき)

(沖縄県出身)
染分野 4年



私は、高校から興味があった工芸を学ぶため工芸専攻に入学しました。染・織・陶芸・漆芸の4分野を幅広く学べるカリキュラムになっており、設備が整った環境で様々なジャンルの作品をのびのび制作することができます。染分野では、授業の中で素材や色料はもちろん、基礎から応用まで多くの技法について学ぶことができるため、自分の作風にあった表現を模索することが可能です。外部の講師から話を聞く機会も多いので、様々な観点から学ぶことができ、制作の中で多方面に視野を広げることができるでしょう。自分の専門以外のことを学べて、なんでも挑戦できる点が本学の魅力だと感じています。たくさんの人と関わりながら、幅広く美術を学ぼうという意欲が、大学生活の中において大きな力になると思います。受験生の皆さんが充実した大学生活を送れるよう願っています。

新垣 萌々

(あらかき もも)

(沖縄県出身)
織分野 4年



工芸専攻では、最初に染・織・陶芸・漆芸の4分野の基礎を学び、2年生の後期から各分野に分かれるため、4分野の幅広い知識と、後に選択する専門分野を深く学ぶことができます。

私は、何者でもない糸達が染まり、織り込まれて布に変化していく様子が美しいと感じ、織分野を選択しました。織分野では、天然染料や化学染料を研究する授業や、苧麻や芭蕉などの繊維素材を学ぶ授業があります。また、緋や花織など織の技法を学ぶことで、織についての知識を様々な観点から深めることができます。

そして、制作の環境が整っているため、充実した作品制作をすることができます。また、やりたいことがあると、それを実現させるために先生方が熱心に教えて下さります。

受験生の皆様が本学に入学した際には、充実した大学生活を送れるよう願っています。

陶芸分野教育環境

陶芸分野では、一人に一台ずつ電動轆轤が与えられます。そして様々な焼成実習が行えるように登り窯・ガス窯・電気窯を設置し、また釉薬などの科学的な実験や研究も行えるように釉薬調合室や実験機器の設備の充実を図っています。



陶磁器制作室

井上 和香

(いのうえ のどか)

(大分県出身)
陶芸分野 4年



私が本学へ進学を決めた理由は、初めに染・織・漆芸・陶芸の全部の分野を経験できるという点です。四つの分野を全て経験することで、好みや興味だけでなく向き不向きもわかるので、分野選択をした後、選んだ専門分野に集中できると思います。

陶芸分野を選んで私が一番助かっているのは、先生や助手の方々がものすごく手厚くサポートしてくださることです。先生方はみんな話しやすいので気軽に相談できるし、ちょっとした疑問をすぐに解決できることは本当にありがたいです。

また陶芸分野では、基本的に2～4年生は同じ作業場で制作をします。同級生だけでなく他学年の作品や制作の様子も見ることができ、たくさんの刺激を受けることができます。

このような環境に恵まれた本学で楽しく陶芸を学ぶことができ、とても充実した学生生活を送っています。



2年生「ロクロ実習」



3年生「鑄込み」



比嘉文音「いつもずっと心の中に」



井上和香「群」

漆芸分野教育環境

漆芸分野では、実習室に様々な道具や材料を機能的に収納できる個人用作業机を置き、デザインワークや下地作業を行います。加飾室や塗部屋、大型作品の制作スペースとしての造形室や木工室の施設、電機回転ぶろ、乾漆用電気炉、堆錦用電動ローラー、回転研磨機、漆精製用ふね他、多くの機器を備えています。



漆芸実習室

吉田 舜乃

(よしだ しゅんの)

(静岡県出身)
漆芸分野 4年



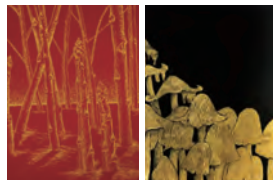
高校では、工業デザインを学び、そこで、自身の仕事の雑さに気づかされました。まずはパソコンなどを介してではなく、自分の手から作品を生み出したい、丁寧な仕事をしたいと思い芸専攻に進学しました。

工芸というと専門性が高く、飛び込みにくい印象があります。しかし、本学では基礎から丁寧に指導してくださるので、工芸の知識や技術がない人も、楽しく学ぶことができます。

漆芸コースは、技術的な指導はもちろん、何よりも生徒の「これがやりたい」という気持ちを尊重してくれます。先生方は、その「やりたい」を叶えるためにどうしたらよいか、というところにフォーカスを当てて指導してくださるので、実現できるかわからないような新しいアイデアも相談しやすく、改めて制作することの喜びやワクワクを感じられる場所です。



螺鈿



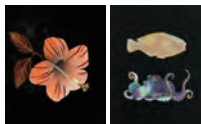
沈金

箔絵



密陀絵

堆錦



3年「蒔絵」



乾漆



漆精製



卒業制作

第34回卒業・修了作品展 卒業論文・修士論文 発表会



第34回卒業・修了作品展も新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じる中での開催となりましたが、過去2年とは異なり、開会式をはじめ表彰式やミニコンサートを開催することができ、卒業生や修了生の門出に相応しい華やかな展覧会となりました。

沖縄県立博物館・美術館の共催を得て、美術館を会場として作品展示を行うと共に、本学当蔵キャンパス一般教育棟大講義室では、卒業論文・修士論文発表会を開催しました。

本展覧会は卒業・修了年次の学生たちの作品を展覧し、研究成果をより広く社会へ発信し還元することを目的としています。沖縄の豊かな自然や伝統に育まれた若者たちが本学を巣立ち、各分野で新しい創造的な芸術文化を形成・発展させていく、その足がかりとなる展覧会にすると同時に、作品鑑賞会を開催することで、未来を担う子供たちの育成や地域の方々との交流にも寄与することを目標としています。



美術工芸学部地域貢献

絵画専攻

共有空間でのホスピタリティー事業

—那覇市立病院 100 点の絵画作品展—

期間：2012 年 9 月～現在

場所：那覇市立病院

絵画専攻では公立病院内に絵画・版画・写真などの、学生と教員の作品を展示するプロジェクトを行っています。病院という医療公共空間において芸術作品によるホスピタリティー（思いやり、心からのもてなし）空間創出の効果を高め、確かめる共同研究の一環として行っています。



デザイン専攻

中城村の特産品開発

期間：2023 年 3 月 27 日～31 日

場所：中城村役場

支援団体：中城村

デザイン専攻では、2 年生の共同研究の授業で市町村を対象に特産品の開発を行っています。この授業は地域の活性化と、学生と社会との繋がりを目的としており、平成 15 年度より継続して行っている授業です。また、地域貢献を含め、社会に対するデザインの役割を考える授業でもあります。今まで行なった市町村は、初年度の宜野座村を皮切りに、令和 3 年度は恩納村に対し提案を行いました。初回から数えると、18 市町村と 1 施設で実施したことになります。令和 4 年度の中城村では、商品そのものよりもイベント等で、歩きながら村の自然や文化を再発見し、新しい産業や行楽を考えていく企画が多くありました。

企画の最後には中城村役場にて 3 月 27 日（月）から 31 日（金）まで展示を行いました。



工芸専攻

「首里城復興ピアノ」加飾制作

お披露目式：2022 年 10 月 17 日

場所：首里城 首里杜館 1 階 無料休憩所

一般財団法人沖縄美ら島財団の首里城基金の人材育成事業として、首里城公園に寄贈され設置されていたピアノに、本学の大学院生を中心に琉球漆芸の技法で装飾を施しました。「箔絵」と「密陀絵」の技法を用いて、首里城正殿にも装飾されている栗鼠と葡萄の文様を加飾し、首里城の復興と沖縄県民の繁栄への願いを込めて制作されました。このピアノは首里城の首里杜館 1 階の無料休憩所にて常時展示され、今後演奏会等にて活用される予定です。



With art 展 vol.2

～パレットくもじ×沖縄県立芸術大学

期間：2022 年 12 月 1 日～12 月 25 日

場所：パレットくもじ

主催：久茂地都市開発株式会社、沖縄県立芸術大学

協力：デパートリウボウ

「With art 展 vol.2 アートと共にある未来へ」展は昨年度に続いて、パレットくもじを運営する久茂地都市開発株式会社と沖縄県立芸術大学の主催で開催しました。美術工芸学部と音楽学部共同で With art 展実行委員会を立ち上げ、美術工芸学部の学生たちによるパレットくもじ各所における作品展示を行ったほか、音楽学部の学生たちによるクラシック音楽と琉球古典音楽の演奏会も実施しました。



撮影：高野大

音楽学部



音楽学部 HP

音楽表現専攻

声乐コース
ピアノコース
弦楽コース
管打楽コース
作曲理論コース

音楽文化専攻

沖縄文化コース
音楽学コース

琉球芸能専攻

琉球古典音楽コース
琉球舞踊組踊コース



◆ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 音楽・伝統芸能の各分野における基本的知識・技能について体系的に理解している。
- 2 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識、技能について歴史、文化、社会、自然と関連付けて理解できている。
- 3 課題解決に必要な汎用的能力（論理的思考力、情報リテラシー、コミュニケーション・スキル等）を身につけている。
- 4 各分野の専門的な知識・技能と研究能力を身につけている。
- 5 卒業後も社会における自己の役割を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 6 獲得した知識や能力等を活用し、自らの課題を発見し解決する能力を身につけている。

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学習成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 学生の多様な資質・能力を伸長するための少人数による教育
- 2 専門教育（主要科目）における、4年間にわたる段階的履修
- 3 各専門分野における基本的知識・技能を培うための、必修科目を中心とした体系的・横断的な科目編成
- 4 自然や地域、言語、芸術諸分野及び一般教養など幅広い教養を通して、汎用的基礎能力を身に付けるための全学教育科目の編成
- 5 学生の多様な関心や課題発見を促し自律的に学習できる選択科目の設定
- 6 様々な学びを統合し、地域・社会との連携を通して、芸術（音楽・芸能）と社会との関係を学ぶ科目の提供
学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄で育まれた個性ある音楽・芸能及び普遍的価値を持つ音楽芸術の体系的な研究を通じ、それらの継承発展とともに新たな芸術創造に寄与できる人材育成を目指します。そのために、専門分野における知識・技能を深めるとともに、広い視野を持って思考し、問題解決を行うために必要な教養を身につける教育を行います。



教育研究上の目的

音楽学部は、音楽・芸能に関する専門的技能及び諸理論を教授研究して、音楽・芸能の分野における知識、技術、表現力及び他者との協働により社会に対して汎用化できる能力を備えた人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。(学則第4条の2号)

音楽学部の教育方針

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の育成をめざします。

豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。

【求める人材】

音楽学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力(思考力・判断力・表現力等)、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び音楽学部のポリシーを十分理解し、大学での学習に自律的に取り組むことのできる人
- 2 音楽学部における学習に必要な基礎的知識・技能及び課題解決のための思考力・判断力・表現力を備えている人
- 3 自身の知識・技能をさらに伸ばし、将来、演奏家、作曲家、実演家、研究者又は教育者など、音楽・芸能分野における専門家となる意欲のある人
- 4 芸術創造の営みについて、現代社会との関わりの中で思考し、主体性を持って多様な人々と協働する意欲のある人
- 5 音楽や舞踊、沖縄における芸術文化や本学での学びに関心がある人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

音楽学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。その際、大学入学前に学んでおくべき内容・水準について、募集要項と併せて公表する『試験曲』によって明示するものとします。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の3要素(「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」)を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに、

総合点に基づき合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語の2科目を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、専攻試験(実技検査、小論文、口述試験等)、音楽に関する基礎能力検査(楽典、聴音、新曲視唱、副科ピアノ等)及び面接を課し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。本区分においては、全般的な学習能力について総合的に評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 2 学校推薦型選抜では、専攻試験(実技検査、小論文、口述試験等)、音楽に関する基礎能力検査(楽典、聴音、新曲視唱、副科ピアノ等)及び面接を課し、大学での学習に必要な知識、技能及び主体性等を測り評価します。本区分においては、専門分野における高い能力、調査書及び志願者本人の記載する書類等をもとに実施する面接等における評価を重視します。また、高等学校長からの推薦書を活用します。
- 3 社会人選抜では、専攻試験(実技検査、小論文、口述試験等)を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力及び主体性などを測り評価します。本区分では、専攻実技の習熟度及び小論文・口述試験の内容を重視し評価します。

音楽表現専攻

感性を磨き、自由に音楽を表現しよう。

- 声楽コース
- 弦楽コース
- 作曲理論コース
- ピアノコース
- 管打楽コース



教育課程の概要

音楽表現専攻は声楽・ピアノ・弦楽・管打楽および作曲理論の洋楽実技系コースからなり、垣根を超えた教育研究を行っています。

各コースでは、個人レッスンを中心に、演奏や作曲の技能を修得する過程で各分野の専門的能力を養います。また共通する実技および理論系科目を履修することで多様な視点を持った音楽観やコミュニケーション能力を身に付け、これらを基に社会とのつながりを深められる人材育成を行います。

卒業後は学校教員や音楽教育者、オーケストラ奏者をはじめとするプロ活動など、大学で培った実力を県内外・海外で発揮しています。

教員からのメッセージ



澤村 康恵 教授

音楽と自分自身に向き合おう！

音楽表現専攻は、声楽、ピアノ、弦楽、管打楽、作曲理論の5つのコースで構成され、それぞれの専門分野をはじめ、小規模校ならではの長を活かした、きめ細かい指導を行っています。大学での学びは自主性が大切です。それぞれの専門分野はもちろんのこと、自分が興味を持てるものに積極的に取り組んでほしいと思います。自身の可能性を信じる皆さんとの出会いを待っています。

専任教員

声楽コース

五郎部俊朗 教授 (テノール)
 山下 牧子 教授 (メゾ・ソプラノ)
 山内 昌也 准教授 (テノール)
 松田奈緒美 准教授 (ソプラノ)
 藤村 瑛亮 助手 (ピアノ)

ピアノコース

小杉 裕一 教授
 小沢麻由子 准教授
 大城 英明 准教授

弦楽コース

岡田 光樹 教授 (ヴァイオリン)
 林 裕 教授 (チェロ)

管打楽コース

阿部 雅人 教授 (ホルン)
 澤村 康恵 教授 (クラリネット)
 倉橋 健 教授 (トランペット)
 屋比久理夏 准教授 (打楽器)
 小野 瑞姫 助手 (ホルン)

作曲理論コース

塚本 一実 教授
 土井智恵子 准教授

声楽コース

■アドミッション・ポリシー

音楽に興味を持ち、歌が好きで、音楽の総合的な研究を通して自らの世界を見つけたいと思っている人を求めています。

■カリキュラム・ポリシー

声楽家や音楽教育者として活躍し得る人材育成を目標としています。独唱、合唱、重唱、オペラなどの授業を通して、声楽技術の習得と感性を養う指導を行い、それと合わせて音声生理学・舞台語発音演習・和声・音楽史等の授業で、知識と理解を深めるカリキュラムとなっています。



オペラ学内演奏会



大学院オペラ



声楽実技

声楽コースの必修科目

- 声楽実技
- オペラ総合実習
- 舞台表現演習
- ソルフェージュ
- 副科ピアノ
- 合唱
- 重唱
- 音楽基礎演習
- 和声
- 西洋音楽通史

主な選択科目

- 声楽アンサンブル基礎
- 舞台語発音演習
- 音声生理学
- 声楽史

宮良 真子 (みやら まこ)

(沖縄県出身)
大学院 音楽芸術研究科 演奏芸術専攻
声楽専修 1年



私は学部の4年間、発声の基本はもちろん、声楽に必要な知識や言語、歌声によって喜びや悲しみといった「表現すること」を身につけることができました。4年間で学んできたことをさらに深め、技術面や表現力の更なる高みを目指し、大学院への進学を決めました。入学当初から今も変わらず、親身にご指導してくださる先生方と巡り会えたことは、私のかけがえのない財産となっています。本学では、少人数だからこそ、各領域の先生方からの手厚い指導を間近で受けることができます。また、学部3・4年生のカリキュラムに含まれるオペラの授業では、大学の先生方や演奏員の先生、そして国内外で活躍されているオペラ演出家の先生からの指導を受けることができ、オペラの舞台上に必要な素養を身につけることができます。さらに、学内外での演奏機会が多く、ホールでの実践経験を踏めることが最大の魅力だと感じております。

ピアノコース

■アドミッション・ポリシー

ピアノ音楽に興味と探究心を持ち、音楽をこよなく愛する人を求めています。独奏だけではなく伴奏やアンサンブルを通じて、音楽的・人間的な幅を広げたいという意欲を持っている人を求めています。

■カリキュラム・ポリシー

専門実技を軸に、4年間を通して段階的に独奏及びアンサンブルの演奏能力を高めるとともに音楽理論や音楽史等で学んだ知識を踏まえ、適切な演奏法を習得します。地域社会との連携を含む学内外での多くの演奏実践を通して社会性を培い、音楽の普遍的な魅力を次世代に伝えられる豊かな感性を備えた人材育成を目指します。



学内演奏会 (ピアノソロ)



ピアノ実技



ピアノ構造学



学内演奏会 (ピアノ重奏)



室内楽

ピアノコースの必修科目

- ピアノ実技
- ピアノ重奏
- 伴奏法
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 西洋音楽通史
- 鍵盤音楽史
- ピアノ構造学
- 副科音楽

主な選択科目

- 室内楽
- 対位法
- 演奏解釈論
- ピアノ指導法

坂田 歩 (さかた あゆみ)

(兵庫県出身)
ピアノコース4年



私は本学の受験を見据えた今から5年前に、オープンキャンパスではじめて沖縄の地を訪れました。暖かくて時間の流れがゆったりと感じられる沖縄で、のびのびと勉強していけたらいいな、と思ったのを覚えています。

私は入学前から、アンサンブルの経験を多く積みたいと考えていました。本学は小人数制ですので、4年間でたくさんの室内楽や伴奏の場をたくさんいただき、とても充実した4年間となりました。ピアノソロでは、プロフェッショナルな先生のご指導のもと、本当に幅広いレパートリーを学ぶことができました。先生方が個々の学生の頑張りをよく見てくださり、各々の学生にあったサポートをしてくださるところも大きな魅力です。皆さんもきっと、音楽とたくさん向かい合うことのできる、充実した素晴らしい4年間になることと思います。

弦楽コース

■アドミッション・ポリシー

弦楽器を通して音楽を探求し、広く芸術分野で自己を表現したいと考える人を求めています。

■カリキュラム・ポリシー

古典から現代に至るさまざまな作品を課題として、弦楽器の独奏と合奏（アンサンブル）を学習します。専門実技（独奏）を中心に、室内楽、弦楽合奏及びオーケストラといったアンサンブルの実践的学習を通して、演奏技術や表現について体系的に学習するとともに、学生の関心に応じた科目設定ができます。



学内演奏会後に



【対話型授業】に向けた取組



学内演奏会



弦楽合奏学内演奏会

弦楽コースの必修科目

- 弦楽実技
- 弦楽アンサンブル基礎
- 弦楽合奏
- オーケストラ
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 副科声楽
- 西洋音楽通史
- 副科ピアノ

主な選択科目

- 室内楽
- 楽曲分析
- 管弦楽史
- 管弦楽法概論

佐喜真 三千花 (さきま みちか)

(沖縄県出身)
弦楽コース4年



本学では同じ目標を持った仲間が沢山いるので、切磋琢磨しながら学校生活を送ることが出来ます。私自身、これまで練習に対してのやる気がなかなか起きない時もありましたが、練習を頑張っている人たちを目の当たりに出来るのは私にとってはものすごく刺激的で、練習意欲の向上に繋がりました。また、この学校は少人数制なので、先生方との距離が近く親身に手厚く指導してくれます。マンツーマンのレッスンだけでなく、室内楽やオーケストラなどの大きな編成、また、打楽器とのアンサンブルも学ぶことができ、今までとは違った視点で音楽を学び、楽しむことが出来ました。3年半の学校生活を通して、大変だと思うことも沢山ありましたが、私は本学に入学し、演奏者としても、1人の人間としても成長できたと感じています。

管打楽コース

■アドミッション・ポリシー

それぞれの専門楽器の演奏向上に努め、広く芸術分野で活躍できる人を求めています。また、音楽を通して豊かな人間性、社会性を身に付けたいという意欲のある人を求めています。

■カリキュラム・ポリシー

管打楽コースは木管楽器、金管楽器、打楽器に大別されます。楽器種ごとに経験豊かな教員が段階的にきめ細かい指導を行うことにより、高度な技術と豊かな音楽性を持った音楽家・指導者の育成を目指します。室内楽・管打合奏ではアンサンブルの技術だけではなく、協調性や社会性を養います。1年次から4年次までソロやオーケストラなど、数多くの演奏会に出演することで多くのことを学修することができます。



管打合奏（洋楽定期公演）



室内楽定期演奏会



管打楽実技

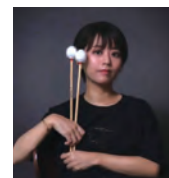
管打楽の必修科目

- 管打楽実技
- 管打合奏
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 西洋音楽通史
- 副科ピアノ
- 副科声楽

主な選択科目

- 室内楽
- 管弦楽史
- 管弦楽法概論
- 演奏解釈論
- オーケストラ

宮里 凜花 (みやざと りんか)
(沖縄県出身)
管打楽コース4年



管打楽コースでは、オーケストラや吹奏楽、室内楽、ソロなど様々な演奏形態を学ぶなかで、演奏技術や表現力、アンサンブル能力などを高めることができます。少人数制であるため、1年生の頃から多くの演奏会に出演することができます。また先生方は、学生一人ひとりの個性や弱点に目を向け、つらい時は一緒に乗り越えようと向き合ってください。この4年間で音楽的にも、人間的にも成長させてもらえたと実感しています。

また学生企画のアンサンブル演奏会を行っている楽器が多いため、学外での演奏の機会にも恵まれています。演奏会の企画・運営を通して、理想の音楽をつくりあげる難しさや、人前で表現する喜びを感じています。学生は学年問わず仲が良く、互いに高め合えるような関係で、毎日多くの刺激と学びを得ています。

作曲理論コース

■アドミッション・ポリシー

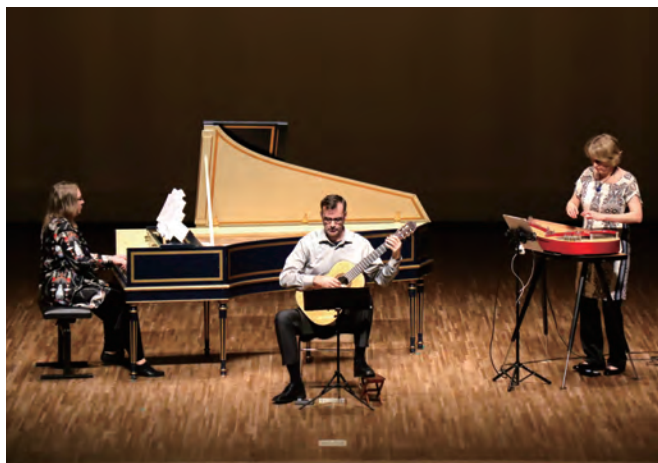
古典から現代にいたる作曲作品を研究・分析し、創造的な音楽作品を生む能力を獲得することに意欲と情熱をもって取り組める人材を求めています。

■カリキュラム・ポリシー

作曲理論の基礎的な能力を身に着け、近・現代にいたる楽曲の研究を通して、作曲作品を制作することを目標としています。1年次の独奏楽器とピアノによる二重奏から、自由なアンサンブルによる4年次卒業作品まで、学年が進むにつれて様々な編成での創作を経験できるようにカリキュラムが組まれており、各年次に作品を提出し、作品を発表する機会が与えられています。



2022 試演会



アーティスト・イン・レジデンス スーパーブラック



試演会 音合わせ



鈴木俊哉先生リコーダーレクチャー

作曲理論コースの必修科目

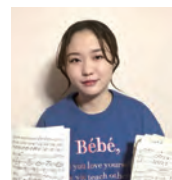
- 作曲実技
- 作曲演習
- 西洋音楽通史
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 副科声楽
- 楽曲分析
- 鍵盤楽器実技
- 副科ピアノ
- 対位法

主な選択科目

- 管弦楽法概論
- 管弦楽史
- 鍵盤音楽史
- 声楽史

伊佐 璃音 (いさ りおん)

(沖縄県出身)
作曲理論コース2年



作曲理論コースでは年に一度、自分の書いた曲を試演してもらえることがあり、作曲者自ら同級生や先輩後輩に直接頼んで、演奏してもらいます。同年代の演奏者から気軽に演奏者目線の意見やアドバイスを聞くことができ、今後の曲作りの為の勉強になることが沢山あると感じます。

また作曲理論コースの試演会の他に、各コースで定期演奏会というものがあり、大学の校内にある奏楽堂ホールで演奏することができます。学校関係者は誰でも定期演奏会を見ることができるので、音響の整った環境で、同年代の演奏者が奏でる音楽に沢山触れることができます。ソロの演奏は勿論、編成の大きなオーケストラや、本学ならではの琉球古典芸能の定期演奏会にも触れることができます。

本学で、同年代の音楽家から刺激を受け、輝ける大学ライフと一緒に過ごしましょう！

音楽文化専攻

音楽を深く知って、社会とつながる

● 沖縄文化コース ● 音楽学コース



沖縄文化コース

■ アドミッション・ポリシー

古典から現代に至る沖縄の音楽・芸能と文化について広い関心と問題意識を持ち、沖縄の音楽文化振興への貢献を目指したい人を求めています。

■ カリキュラム・ポリシー

1年次では、沖縄の音楽文化に関する基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、舞台企画・制作についての専門的な講義、演習、また音楽関連施設等での実習を通してアートマネジメントの知識や経験を蓄積し、4年次には卒業制作または卒業論文を作成します。

専任教員 沖縄文化コース

谷本 裕 教授 (アートマネジメント・文化政策)
 呉屋 淳子 准教授 (文化人類学)
 遠藤 美奈 准教授 (民族音楽学・沖縄芸能研究)
 神谷 武史 講師 (アートマネジメント・文化政策)

教育課程の概要

音楽文化専攻では、沖縄をはじめ日本やアジア、世界中のさまざまな音楽や芸能とその文化的脈絡について学問的に理解し、自らのことばで的確に表現する力を身につけます。講義、実技科目によって音楽文化に関する歴史や理論、実践を幅広く学ぶとともに、演習、実習科目によって専門的能力を高め、沖縄県内のみならず国内外で音楽と社会の架け橋となる人材の育成を目指します。卒業後は、アートマネジメントのエキスパート、教員、地域の指導者、音楽関連および一般企業への就職、大学院への進学等、幅広い進路が選択可能です。

音楽学コース

■ アドミッション・ポリシー

ある程度の音楽的実践能力を背景に、さまざまな音楽や芸能とその文化的脈絡について広い関心と問題意識を持ち、深く考える能力を備えた人を求めています。

■ カリキュラム・ポリシー

1年次では、音楽学の基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、資料批判や音楽理論、フィールドワークなどの専門的な講義、演習、また論文指導などの実習を通して音楽や芸能に関する知識や経験を蓄積し、4年次には卒業論文を作成します。

専任教員 音楽学コース

小西 潤子 教授 (民族音楽学)
 高瀬 澄子 教授 (日本音楽史)
 倉橋 玲子 准教授 (西洋音楽史)
 向井 大策 准教授 (西洋音楽史)

教員からのメッセージ



高瀬 澄子 教授

音楽と言えば、歌を歌ったり楽器を弾いたり、曲を作ったりすることを連想するのではないのでしょうか。しかし、音楽に対する関わり方は、必ずしも演奏や作曲だけとは限りません。音楽文化専攻は、音楽と音楽を取り巻く文化について、幅広く学び、深く考え、言葉で伝え、社会に活かすことを目指す専攻です。音楽が好きだけでも演奏家や作曲家になりたいわけではないな、と思っている方がいたら、本専攻がぴったりかもしれません。

沖縄文化コースの必修科目

- 音楽文化入門
- 英語文献購読
- 琉球芸能史
- 琉球音楽論
- 琉球芸能論
- 舞台制作論
- 舞台制作演習Ⅰ・Ⅱ
- 音楽事業演習Ⅰ・Ⅱ
- 音楽文化研究Ⅰ～Ⅲ
- 卒業研究
- 音楽・舞踊実技Ⅰ・Ⅱ
- 音楽基礎演習Ⅰ・Ⅱ
- ソルフェージュⅠ・Ⅱ (文)
- 副科声楽 (文)
- 副科ピアノ (文)
- 和声 (文)
- 民族音楽学
- 日本音楽史
- 西洋音楽史講義

音楽学コースの必修科目

- 音楽文化入門
- 英語文献購読
- 民族音楽学
- 日本音楽史
- 西洋音楽史講義
- 民族音楽学演習
- 日本音楽史演習
- 西洋音楽史演習
- 音楽美学
- 音楽文化研究Ⅰ～Ⅲ
- 卒業研究
- 音楽基礎演習Ⅰ・Ⅱ
- ソルフェージュⅠ・Ⅱ (文)
- 副科声楽Ⅰ・Ⅱ (文)
- 副科ピアノⅠ～Ⅳ (文)
- 和声Ⅰ・Ⅱ (文)
- 楽曲分析Ⅰ・Ⅱ (文)



研究誌ムーサ・卒業研究要旨集



音楽文化入門



音楽学特殊研究



音楽企画実習

玉城 菜々子 (たまき ななこ)

(鹿児島県出身)
音楽学コース 4年



店内で流れるポピュラー音楽のBGM、コンサートホールで聴くクラシック音楽、近所の公民館から聞こえてくる民謡、家事をしながらふと出てしまう鼻歌。これらの様々な「音楽」を探求できる場所が、音楽文化専攻です。

私は、これまで学んできた西洋音楽だけでなく、身近にある音楽や世界の触れたことのない芸術文化を学びたいと思い、音楽文化専攻に進学しました。本専攻には、古典音楽や地域芸能、アートマネジメントなど様々な分野を専門とする先生方がいらっしゃるため、幅広い分野の音楽を、多角的な視点から学ぶことができます。また、それぞれ様々な芸術に興味を持つ学生や先生方が集まっているため、互いに刺激を受け、自分の音楽の世界を広げることができるのも、大きな魅力です。

皆さんも、音楽文化専攻で「音楽」を探求してみませんか？

稲福 ほずみ (いなふく ほずみ)

(愛知県出身)
大学院 音楽芸術研究科
音楽学専攻 音楽学専修 2年



将来、地域に還元できるような芸能イベントを企画したいと思い、本学の沖縄文化コースに入学しました。4年間、舞台マネジメントについて学び、いくつか公演も開催しました。卒業後の進路について考えた時、もっと沖縄の文化や歴史について学びたいと思い、大学院に進学しました。大学院では、より専門的な内容を学ぶことができます。

以前、海外から観光で来ていた方に、沖縄を案内する機会があり、首里城の歴史や、私の住む地域について説明することができました。この出来事は、本学で学んだ知識が身に付いていることや、その知識を自身の言葉で伝えられることを実感した瞬間でした。

本学では、沖縄に関する授業が充実しているので、他大学では得られない知識や体験ができます。また、少人数のため、学生のペースに合わせた授業も魅力の一つです。

琉球芸能専攻

世界でただ一つ、
本学だけの教育研究分野

● 琉球古典音楽コース ● 琉球舞踊組踊コース



第33回琉球芸能定期公演より「かぎやで風」



舞踊「加那よ一天川」



舞踊「秋の踊り」



舞踊「作田」



独唱「述懐節」

教育課程の概要

沖縄の伝統音楽・芸能を教育研究の対象とした琉球芸能専攻では、琉球古典音楽コースと琉球舞踊組踊コースがあります。専門実技の研究だけでなく、理論的な研究も行い、実習・実演を行なっています。習得した技能は、琉球芸能定期公演や学内演奏会、学外での出演など様々な場所で発揮することができます。学生たちは4年間の学生生活を経て、更なる研究のため大学院へ進学する者、プロとして実演家になる者、中学・高校の教員、一般企業に勤務するなど様々な分野で活躍しています。

琉球古典音楽コース

■アドミッション・ポリシー

沖縄の伝統音楽に興味があり、その音楽の実技と理論を探究したいという情熱と意欲を持つ人材を求めています。

■カリキュラム・ポリシー

琉球古典音楽実技、地謡実技などの授業を通して専門実技を学びます。4年間で琉球古典音楽独唱、琉球舞踊や組踊の地謡など幅広い技能を身につけ、琉球古典音楽の真髄に迫ります。併せて実技や理論、歴史を含めた日本・東洋・西洋音楽の技能や知識も習得し、格式高い琉球古典音楽のを発信できる人材を育成します。

専任教員 琉球古典音楽コース

仲嶺伸吾 教授 (琉球古典音楽 安富祖流)
山内昌也 教授 (琉球古典音楽 野村琉・湊水流)
新垣俊道 准教授 (琉球古典音楽 野村琉)
嘉数幸雅 助手 (琉球古典音楽)

琉球舞踊組踊コース

■アドミッション・ポリシー

沖縄の伝統芸能に興味があり、琉球舞踊と組踊の実技と理論を探究し、琉球芸能に於ける視野を広げ、表現力を深めたいという情熱と意欲を持つ人材を求めています。

■カリキュラム・ポリシー

琉球舞踊と組踊を実技と理論から段階的および専門的に学びます。比較舞踊実技(能・日本舞踊・八重山舞踊・バリ舞踊)、空手・古武道実技などの関連科目や楽劇鑑賞、フィールドワークなどによって幅広く琉球芸能を学びつつ、格式高い琉球芸能を発信できる人材を育成します。

専任教員 琉球舞踊組踊コース

比嘉いずみ 教授 (琉球舞踊)
阿嘉修 准教授 (組踊)
嘉数道彦 准教授 (琉球舞踊・組踊)

琉球古典音楽コースの必修科目

- 琉球古典音楽実技 I～VIII
- 総合実習 I～IV
- 琉球楽器実技 I・II
- 地謡実技 I・II
- 日本・東洋音楽史
- 琉球芸能史
- 琉球音楽論
- 詞章研究 I～III
- 琉球語
- ソルフェージュ (琉)
- 副科ピアノ (琉)
- 副科声楽 (琉)
- 西洋音楽理論



琉球楽器実技 (胡弓) 授業風景

主な選択科目

- 関連琉舞組踊実技
- 和楽器実技 (長唄・生田流箏曲)
- 学外研究
- 音楽創作演習



琉球古典音楽実技 (歌三線) 授業風景

琉球舞踊組踊コースの必修科目

- 琉球舞踊実技 I～VIII
- 組踊実技 I～VIII
- 総合実習 I～IV
- 扮装実習 I・II
- 地謡実技 I・II
- 日本・東洋音楽史
- 琉球芸能史
- 琉球音楽論
- 琉球芸能論
- 詞章研究 I～III
- 琉球語
- ソルフェージュ (琉)
- 副科ピアノ (琉)
- 副科声楽 (琉)
- 西洋音楽理論



琉球舞踊実技 授業風景

主な選択科目

- 舞踊創作演習
- 比較舞踊実技
- 空手・古武道実技
- 舞踊基礎演習
- 舞踊理論
- 楽劇理論
- 学外研究



組踊実技 授業風景

教員からのメッセージ



山内 昌也 教授

琉球芸能とSDGs

琉球芸能は、琉球王国時代から大切に継承されてきた「美」そのものであると考えます。しかし、伝承過程において歴史的背景に基づく上演時の男女の格差は、昔から変化していない部分があります。ジェンダー平等を改めて考えると、特に「うた」や「唱え」(音高)については、今後検討していかなければならない課題かも知れません。

琉球芸能専攻では、性別を問わず各作品を皆で(平等に)取り組んでいくことが通例となっています。学生一人一人が先人たちから受け継がれた「想い」を大事にし、様々な「技芸」を学んでいます。

國場 海里 (くば かいり)

(沖縄県出身)
琉球舞踊組踊コース 4年



小学生から舞踊を始め、師匠や高校時代の先生からの勧めもあり沖縄県立芸術大学へ進学しました。今まで習い事の一つとして捉えていた琉球芸能がこんなにも素晴らしいものであること、同世代だけでなく学内、学外を通して多くの人と人とを結びつける素晴らしい文化であることを知りました。

琉球舞踊組踊コースでは、琉球芸能の技術知識だけではなく集中講義を通して日本舞踊やバリ舞踊なども幅広く学ぶことができます。そして、学内演奏会や定期公演などはじめ、学内外で様々な舞台に立つ機会があるので自分の大きな経験にも繋がります。仲間達や先生方と共に舞台を作り上げていくことは私にとって大きな刺激であり、これからの人生の糧となるでしょう。世界に一つだけのとても魅力のある専攻、皆さんも琉球芸能を探求してみてください。

奏楽堂

自己を見つめ技術を越えて 新たな表現を切り拓く場

奏楽堂は、390席を有するホールを中心として、講義室、合奏室等を備えており、入学式や卒業式等の式典行事の他、音楽実技の総合的実習や美術工芸学部における映像を利用した教育研究成果の発表など、学生が充実して実践を行えるカリキュラム提供の場です。

外観は、屋根を可能な限り小ブロックに分けることによって、大きな単一面を避け、視覚的にも建物を大きく見せない工夫がなされています。ホール内部は、コンサートを主目的としながらも伝統芸能における舞台制作も行えるようそれぞれの使用目的に対応しています。舞台の開口部の必要な高さを一定の範囲で調整可能な方式とし、同様に残響においても、壁面の残響可変装置により目的にあわせて残響を1.4～1.8秒に調整することができます。また講義室や合奏室等もそれぞれ遮音構造となっており、レッスンや講義に適した施設です。



奏楽堂外観



ホール客席



車椅子専用スペース



定期公演



琉球芸能



洋楽

第33回 琉球芸能定期公演 2022年10月1日 奏楽堂ホール

第33回 洋楽定期公演 2022年11月15日 奏楽堂ホール

毎年開催されている定期公演です。

琉球芸能定期公演では、教員と学生が総出演し、琉球古典音楽斉唱、琉球舞踊・組踊が上演され、琉球古典音楽独唱は、学生オーディションにより上位3名が演奏しました。

洋楽定期公演では、管打楽コースの企画により、学生や非常勤講師、沖縄県立開邦高等学校芸術科音楽コース有志出演による大編成の吹奏楽の演奏発表を行いました。吹奏楽のオリジナル作品ほか、沖縄をテーマとした作曲理論コース学生公募作品の初演も披露しました。

なお、2022年9月より3年ぶりに一般の来場者をお迎えしての開催となっております。新型コロナウイルス感染症拡大防止につとめ、入場の際は、検温・アルコール消毒・マスク着用等へのご理解とご協力を求めています。

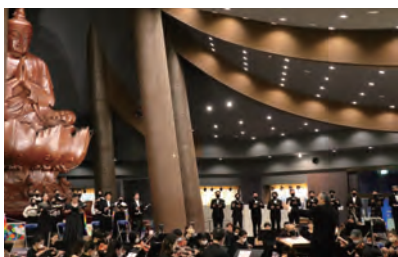


音楽学部の地域貢献

第7回 むちぬぐすーじさびら コンサート in 摩文仁

期間：2022年6月18日
場所：平和祈念堂
主催：レクイエムコンサート実行委員会
共催：沖縄県立芸術大学、
公益財団法人沖縄協会

第7回むちぬぐすーじさびらコンサート in 摩文仁を2022年6月18日に糸満市の平和祈念堂にて開催いたしました。コンサートでは、平和への祈りを込め、モーツァルト作曲『レクイエム』等を演奏し、会場は荘厳なオーケストラと合唱の響きに包まれました。3年ぶりに有観客での開催となった本公演は、多くの県民の皆様にご来場いただいたほか、後日には演奏会の様子の配信も行いました。



第3回アートフェスティバル 展示即売会 & 演奏会

期間：2022年9月28日～10月1日
場所：デパートリウボウ6階催事場
主催：(株)リウボウインダストリー、
沖縄県立芸術大学

デパートリウボウにて、開催されている「アートフェスティバル」は今回で3回目を迎えました。音楽学部は第2回催事より出演しております。洋楽・琉球古典音楽と様々なグループを編成し、学生の学びを多くの来場者に感じていただきました。



おきげい県庁ロビーコンサート

期間：2022年11月～2023年2月
場所：沖縄県庁ロビー
主催：沖縄県立芸術大学
助成：(公財)沖縄県立芸術大学芸術振興財団

11月から2月の間、第4火曜日に沖縄県庁1階ロビーの県民ホールで、ピアノ、管打楽、琉球古典音楽によるランチコンサートを実施しました。県庁職員並びに来庁者など多くの方々にご鑑賞いただきました。音楽による癒しの空間を提供しました。



おきげい出前コンサートシリーズ 「おきみゅー琉球古典音楽演奏会」

期間：2022年11月～2023年1月
場所：沖縄県立博物館・美術館 民家
共催：(一財)沖縄美ら島財団

本学は、一般財団法人沖縄美ら島財団との包括的連携を結んでいます。両者の持つ知的・物的資源を活用し、個性豊かな地域社会の形成を発展させるため、様々な事業を展開しています。「おきみゅー琉球古典音楽演奏会」も琉球古典音楽コースにとって貴重な経験となっております。琉球古典音楽の演奏のみならず、解説などを交えた演出は、毎回多くのお客様にも喜ばれています。



アーティスト・イン・レジデンス

期間：2022年12月2日～3日
場所：沖縄県立芸術大学 奏楽堂ホール
主催：沖縄県立芸術大学音楽学部

本学ではアーティスト・イン・レジデンスと称して様々な芸術家を毎年招聘しています。2022年度はフィンランドのシペリウス音楽院の教員であり、また、秀でた力量をお持ちの演奏家である、ギターとカンテレとハーブシコードという世界でも類のない編成で活躍している「Superpluck」をお招きしました。音楽会では、未聴のとても素敵な澄んだ響きを堪能することができました。レクチャーではこれらの撥弦楽器のことなど、音色について勉強しました。Superpluckは、撥弦楽器の従来の考え方に挑戦しています。演奏された作品は、本学の教員と学生、世界各国の作曲家の新作です。そこに立ちあつた方々は、新しい分野から刺激を受け、多くのエネルギーを得たことと思います。



第2回 WithArt展 おきげい音楽コンサート

期間：2022年12月1日～12月25日
場所：パレット久茂地8催事場
主催：(株)久茂地都市開発、
沖縄県立芸術大学

美術工芸学部の作品展覧会及び音楽学部の演奏会をパレット久茂地8階会場にて開催しました。各週土日の2回公演で、洋楽系、琉球系、琉芸系の演奏を多くの来場者にご鑑賞頂きました。



全学教育センター

本学の教養教育と資格課程教育は「全学教育センター」が運営しています。全学教育センターは、美術工芸学部・音楽学部・芸術文化研究所の教員によって構成され、学部の垣根を越えた全学教育を推進します。

全学教育科目

本学における全学教育科目は、将来、専門教育の成果を社会で十分に活かせるよう、社会性と豊かな人間性を兼ね備えた、文化的素養と国際感覚のある人材の育成を目指します。

全学教育科目は、以下の6つの区分から成っています。

全学教育科目

初年次科目	初年次セミナー					
	日本語 国語表現法					
リテラシー科目	情報 コンピュータ情報論					
	外国語	英語Ⅰ・Ⅱ 英語講読 A・B 英文法 英作文 英語特演Ⅰ・Ⅱ 独語Ⅰ～Ⅳ 独語特演 A・B 仏語Ⅰ～Ⅳ 仏語特演 A・B 伊語Ⅰ～Ⅳ 伊語特演 A・B 中国語Ⅰ～Ⅳ 中国語特演 A・B 日本語初級Ⅰ・Ⅱ 日本語中級Ⅰ・Ⅱ 日本語上級Ⅰ・Ⅱ 日本語特演				
		人文科学系	哲学 A・B 宗教学 言語学 A・B 文学概論 中国文学 日本文学			
			社会科学系	考古学 歴史学 A・B 日本国憲法 文化人類学 心理学		
				自然科学系	数学 化学 生物多様性学 基礎生物学 生命科学 自然科学概論 物理学	
					芸術教養科目	美学 現代芸術概論 美術史 民族音楽学概論 音楽史 ポピュラー音楽論 演劇概論 アートマネジメント概論 芸術とキャリアデザイン A・B 芸術と風土 芸術と科学 言語と文化 芸術と心の臨床
						沖縄の文化に関する科目
		健康・運動科目	健康・運動理論 健康・運動実技 A・B			

【初年次科目】

初年次科目は、全ての新生を対象（必修）とし、高校から大学への移行を円滑に促すため、大学における学修や生活に必要な技能や知識、態度や心構えを身につける目的で開設されます。

【リテラシー科目】

リテラシー科目は、言語コミュニケーション能力や情報コミュニケーション能力の養成を目的として開設され、学修活動の基礎となる自己表現力を磨く科目です。

【一般教養科目】

一般教養科目は、人文科学、社会科学、自然科学の3分野で構成されており、教養の基礎を学ぶための科目が広く置かれています。

【芸術教養科目】

芸術教養科目は、広範な芸術に関する教養を身につけるために開設され、専門以外の芸術諸領域についても学べるようになっています。

【沖縄の文化に関する科目】

沖縄の文化に関する科目は、沖縄文化に関する広範な教養を身につけるために開設し、沖縄の歴史、文化、芸術などの諸領域について深く学べるようになっています。

【健康・運動科目】

健康・運動科目は、理論と実技を通して健康に関する正しい知識と態度を身につけ、生涯にわたって健康で豊かな生活をつくり上げていくための基本的な姿勢を培うことを目的としています。



(2022年度開設講座例)

●『琉球列島の砂浜海岸における海岸漂着ごみ及び軽石と生物の関係』藤田喜久（海洋生物学/海洋環境学）●『「南方録」と「典座教訓」』波平八郎（日本文学）●『オンライン教材を用いた英語多読について』高良則子（英語学・英語教育）



全学教育センターの地域貢献「おきげい教養講座」

本学において教養教育や資格課程を担当する教員が、日頃の教育・研究を広く公開することを目的として、2016年度より開講しています。2016～2022年度に29回の講座を実施しました。

専任教員 | 全学教育科目担当

波平 八郎 教授（日本文学）
高良 則子 教授（英語学/英語教育）
張本 文昭 教授（野外教育学）
藤田 喜久 教授（海洋生物学）
山田 浩世 准教授（歴史学）

資格課程

教育職員免許状取得希望者は、本学を卒業するために必要な単位を修得し、かつ免許教科の類に応じ、所定の単位を履修すれば美術、工芸、音楽などの教育職員免許状を取得できます。また、同様に博物館学課程の所定の単位を履修すれば、博物館学芸員の資格を取得することができます。

【教職課程】

本学教職課程では、①地域の独自性と得意分野を持つ教員、②国語力・書く力を持つ教員、③教育相談能力を持つ教員の四つの力を持つようなバランスのとれた教員の育成を目指しています。

本学で取得できる教員免許状は、まず、美術工芸学部では中学校教諭1種免許状(美術)、高等学校教諭1種免許状(美術)です。また、工芸専攻では前記の二つの免許状に加え高等学校1種免許状(工芸)を取得できます。次に、音楽学部では中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)を取得することができます。さらに、大学院では、中学校教諭専修免許状(美術、音楽)、高等学校教諭専修免許状(美術、工芸、音楽)を取得することができます※1。中学校教諭免許状を取得すれば小学校の「図画工作」、「音楽」の専科教員になることもできます。現在、本学にて教員免許を取得した多くの卒業生が、本務あるいは非常勤の教員として活躍しています。

教員免許状の授与に至るまでには、卒業に必要とされる科目の他に「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」等の科目を履修しなければなりません。

さらに、中学校の教員免許状を取得するには、「介護等体験」を7日間(社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間)行わなければなりません。本来、教職は幅広い教養と教員としての資質や適性はもとより、教育に関する理念、児童・生徒の成長・発達についての理解、教科に関する深い専門知識と豊かな指導力が求められます。また、

実際に教員になるためには、公立学校の場合、厳しい教員採用試験に合格しなければなりません。そのため、堅実な動機と周到的な履修計画が望まれます。

※1 専攻によって取得できる免許種が異なります。

1. 教育の基礎的理解に関する科目等

教職に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じ、次の通り履修しなければなりません。

授業科目	教育実践演習(中・高)教育実習(短期)教育実習(長期)教育方法(情報通信技術の活用含む)学校カウンセリング生徒・進路指導論
	総合的な学習の時間の指導法道徳の理論及び指導法特別支援教育教育心理学教育行政教育職論教育原理



美術科教育法Ⅱ



美術科教育法Ⅱ

【博物館学課程】

博物館において、資料の収集・保管・展示・教育普及など専門的な仕事を司る職員を「学芸員」といいます。博物館学課程は、この「学芸員」となる資格を取得するための課程です。

本学では、芸術大学である特性を踏まえ、美術または音楽を専門とする学芸員を育てるカリキュラムを設けています。

今日の博物館は多様化し、実にさまざまな役割を担っています。卒業生は、沖縄県内外の博物館や美術館に学芸員として就職し、芸術と社会の架け橋となって活躍しています。



博物館実習風景

博物館学課程の授業科目及び履修単位

1 指定教育科目 (19 単位)
生涯学習概論 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館情報・メディア論 博物館教育論 博物館実習
2 関連教育科目
前記1の指定教育科目に加え、各学部が所属学生へ提供する関連教育科目16単位を履修する必要があります。(詳細は「履修案内」を参照すること)



博物館実習風景

2. 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じて、次のとおり履修しなければなりません。

(美術工芸学部)

免許状の種類	免許教科	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位は規定による
中学校教諭1種免許	美術	絵画(映像メディア表現を含む。)彫刻デザイン(映像メディア表現を含む。)工芸美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	
		絵画(映像メディア表現を含む。)彫刻デザイン(映像メディア表現を含む。)美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	
高等学校教諭1種免許	美術	図法及び製図デザイン工芸制作(プロダクト制作を含む。)工芸理論、デザイン理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。)各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	
		図法及び製図デザイン工芸制作(プロダクト制作を含む。)工芸理論、デザイン理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。)各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	

(音楽学部)

免許状の種類	免許教科	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位は規定による
中学校教諭1種免許	音楽	ソルフェージュ 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。) 器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。) 指揮法 音楽理論・作曲法(編曲法を含む。) 音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。) 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	
高等学校教諭1種免許	音楽	ソルフェージュ 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。) 器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。) 指揮法 音楽理論・作曲法(編曲法を含む。) 音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。) 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	

専任教員 | 資格課程担当

[教職課程]

芳澤 拓也 教授 (教育学)

城間 祥子 准教授 (教育心理学)

[博物館学課程]

森 達也 教授 (博物館学)

大学院 造形芸術研究科 修士課程

【教育研究上の目的】

造形芸術研究科は、造形芸術分野における深い学識の涵養及び専門的な能力の教授研究により、社会における芸術活動に貢献し得る卓越した人材を育成し、もって造形芸術の発展に寄与することを目的とする。(大学院学則第5条の1号)

■教育理念・目標

造形芸術研究科は、造形芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法の特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追究する比較芸術学・民族芸術文化学の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における造形芸術分野の幅広い実践活動を担う作家や研究者、芸術教育の専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

■ディプロマ・ポリシー

(修了認定・学位授与の方針)

沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科では、教育の理念・目的に沿った高度で専門的な教育課程で成果をあげ、修士作品又は修士論文の審査及び口述試験を経て、所定の単位を取得した学生に対し、修士(芸術)の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 幅広い視野にたち専門分野における高度な知識と技術を身につけている。
- 2 専門分野における高度な研究能力と論理的思考力を身につけている。
- 3 専門分野における知識・技術を応用し、社会に発信する能力を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

造形芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得するために、高度で専門的な授業科目を開設し、体系的に編成・実施します。また、修士作品の制作又は修士論文作成のための研究指導を複数教員により組織的に行います。

- 1 研究実施計画に沿った指導計画に基づく研究指導により、専門分野における高度な技術と理論を身につけ、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。
- 2 関連科目の履修により幅広い視野にたち深く学識を涵養する。
- 3 自律的な研究を進めるため、造形芸術における高度な技術及び知識を修得する。
- 4 専門的知識や技術を社会で応用し、新たな芸術創造と活動に貢献し得る卓越した能力を培う。

■アドミッション・ポリシー

(入学者受入れの方針)

造形芸術研究科では、本研究科の教育理念に基づき次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

- 1 幅広い教養と造形芸術分野の専門的素養を備えているか。
- 2 専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
- 3 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

●生活造形専攻

工芸専修

染研究室では、古典紅型を調査研究し、筒引き・型染の表現における形態を学びます。顔料彩色と藍染の表現の違いを学ぶ事で適正材料の知識を得ます。それを基に自己の防染法の表現方法を広げ、現代に即応した創作活動、研究制作を目標とします。

織研究室では、沖縄の染織技法、その他綴れ等の技法を活用した制作、琉球藍などの天然染料や素材の調査研究を行います。また、沖縄を含め日本・アジアの染織に関する調査・研究を行い、伝統的な技術の伝承や創作性への展開にも取り組みます。

陶磁器研究室では、器物作品制作と造形作品制作に分かれ、それぞれの専門的実技と理論を習得します。教育内容としては、1年次には素地土の調整と釉薬原料の研究など成形技術と比較焼成(黒陶・野焼)を含む実習を主眼とし、2年次ではより高度な焼成技術と加飾技法を課題として研究制作を行います。

漆工研究室では、学部での教育課程を土台とし、各自の研究テーマを中心に高度で実践的な研究を行うと共に、琉球漆芸を含む日本漆芸全体の伝統技法の研究もより深く継続していきます。時代や社会をより意識し、独創的な表現を探究しながら、現代社会に貢献できる人材の育成を目標とします。

デザイン専修

デザイン専修は、視覚伝達デザイン研究室と生活環境デザイン研究室から成ります。

視覚伝達デザイン研究室では、グラフィックデザイン、映像デザイン及び空間演出における視覚的な表現などを研究領域とし、制作を通じてビジュアルコミュニケーションデザインの在り方を追究します。

生活環境デザイン研究室では、公共空間のスペースデザイン、居住空間、家具等のデザインや地域性を勘案した製品デザイン等の造形を研究領域とし、論理的なデザインプロセスの構築手法から実践的でより高度な造形表現を追究します。

●環境造形専攻

絵画専修

絵画専修では、学部での教育課程の学習成果を踏まえ、自己の創出する研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行い、将来にわたって美術家として主体的に課題テーマを探求し、独創的な美術表現や創作活動、美的価値を創出する研究能力の育成を目指します。

油画研究室においては、油画、版表現、平面表現、さらに映像表現、インスタレーションを研究領域とし、日本画研究室においては、伝統的な材料技法に基づく古典から現代を通じた高度な修練を現代における自己の表現として確立をめざします。

彫刻専修

彫刻専修では、学部の教育課程において培った教養と彫刻分野の専門的素養の上に立ち、それぞれの領域における学生の研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行います。その上で、将来にわたって作家などの専門家として自ら主体的に課題を創出し、独創的な表現方法の探求を継続していくための研究能力の育成を目指します。

また、今日の多様な表現領域の中で、特殊な材料・造形技法の分野についても高度な内容の充実を図り、それらを積極的に応用していく能力を養います。

●比較芸術学専攻

比較芸術学専修

比較芸術学専修では、日本、琉球、東洋及び西洋の芸術学・芸術史の比較研究を基盤として、古典から現代にわたる歴史的な視点にたち、あわせて国際的にも地域社会に対しても広い視野をもって美術を理論的に把握し、現代の芸術にも建設的な批判精神を養うことを目的としています。

また、沖縄の地域文化の特性と伝統は、日本のみならずアジア各地域の文化と比較しても極めて豊かな内容をもっています。その固有の風土によって培われた芸術文化を民族文化学、アジア工芸史、比較文化学、琉球文化学及び日本文学の立場から研究することを目的としています。



デザイン専修 授業風景



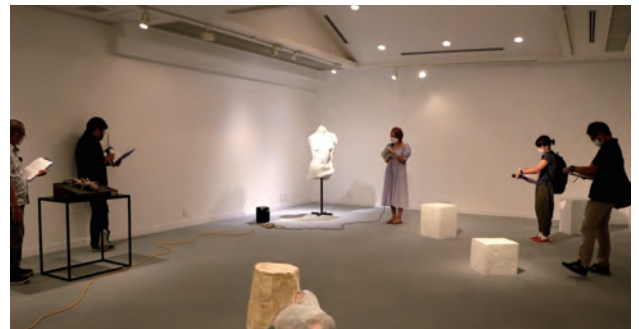
デザイン専修 修了作品発表・判定会



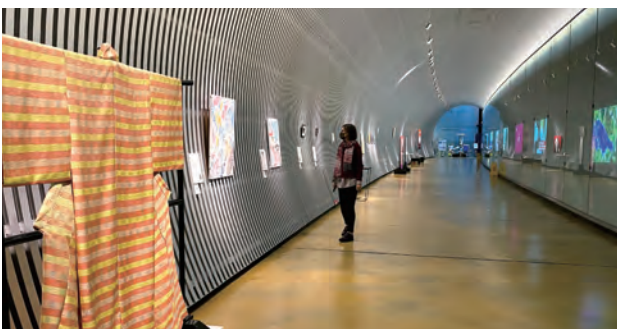
絵画専修 ディスカッション風景



工芸専修 研究発表会の様子



彫刻専修 作品講評の様子



工芸専修 OIST CYCLE 展



比較芸術学専修 授業風景

音楽芸術研究科 修士課程

【教育研究上の目的】

音楽芸術研究科は、音楽芸術分野における深い学識と専門的な研究能力を培い、社会において高度に専門的な職業を担うことのできる人材を育成し、もって音楽芸術の発展に寄与することを目的とする。(大学院学則第5条の2号)

■教育理念

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する音楽構造学および民族音楽等の観点から、汎アジアの広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を持ち、想像力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

■ディプロマ・ポリシー

(修了認定・学位授与の方針)

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、教育の理念に沿った高度な専門教育において成果をあげ、修士演奏、修士作品又は修士論文の提出を経て、所定の修了単位を取得した学生に対し、修士(芸術)の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 専門分野における高度な技術力を身につけている。
- 2 研究分野における高度な研究能力と論理的思考力を身につけている。
- 3 研究分野における知識、技術を言語化、理論化し、社会に発信する能力を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

音楽芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、講義、演習、実技を組み合わせた授業科目を開講し、修士演奏・作品(副論文含む)並びに修士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、履修表及びカリキュラムマップにより、体系的や各科目間の関係性を示します。

- 1 研究計画に基づいた研究指導により、専門分野における精緻な技術を身につけます。また、関連科目の履修によって広い視野に立った学識を涵養します。
- 2 課題探求や洞察に必要な、論理的思考力やコミュニケーションスキル、情報リテラシーなど、研究に必要な基礎的素養を養います。
- 3 各専攻分野で獲得した能力を応用し、高度の専門性が求められる各分野の職業を担い得る卓越した能力を培います。

■アドミッション・ポリシー

(入学者受け入れの方針)

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

- 1 幅広い教養と音楽芸術分野の専門的素養を備えているか。
- 2 専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
- 3 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

●舞台芸術専攻

琉球古典音楽専修

琉球古典音楽専修では、琉球古典音楽独唱、琉球舞踊組踊地謡を独演できる技量が求められています。

琉球古典音楽研究では、大昔節(茶屋節・昔蝶節・十七八節・長ぢゃん節・仲節)の演奏表現を研究します。それらを最終的には修士演奏で発表します。また、演奏技術習得だけでなく、理論的にも追究し、副論文の作成にも取り組みます。

琉球舞踊組踊専修

琉球舞踊組踊専修では、代表的な古典舞踊や雑踊、組踊の基本的な役柄の演技と唱えを習得していることが求められています。

琉球舞踊研究では、琉球舞踊に関する身体表現を研究し、組踊研究では、諸様式や役柄の心情表現を研究します。

また、舞踊論研究、琉球楽劇論研究などの理論研究を通して古典芸能の理解を深め、創作能力を身につけます。修士演奏では、古典または創作などが課せられ、いずれも内容に即した副論文の作成にも取り組みます。

●演奏芸術専攻

声楽専修

声楽専修では、学部で学んだ基礎を活用しながら、より高度な研究を行い、舞台上で活躍できる人材を育てることを目的としています。カリキュラムを通し、幅広い学識を深め、自分の声と表現の特質を把握し、レパートリーの確立を目指します。

将来、コンサート歌手としてリサイタルを開催するために必要な演奏技術と音楽表現を学び、またオペラ歌手として一つの役を歌い演ずる歌唱技術と演技力を身につけます。さらに、協奏曲研究にてオーケストラと共演する機会も与えられます。

ピアノ専修

ピアノ専修では、より高い次元での演奏を目指して、幅広い視野に立ち自身の研究を追究してゆこうとする人材を求めています。ピアノ研究ではリサイタルを1回以上開催できるレパートリーの拡充を目標とし、協奏曲研究では本学のオーケストラとの共演により、より大きなスケールでの演奏表現を体得し実践します。

管弦打楽専修

管弦打楽専修では、学士課程において培った専門実技の技術をさらに高め、研鑽を重ねようとする強い意志を持った人材を求めています。管弦打楽研究の個人指導を中心に、オーケストラ、室内楽等、器楽奏者として必要な分野を深く研究します。協奏曲研究ではソリストとして大学のオーケストラと共演します。

● 音楽学専攻

音楽学専修

音楽学専修では、音楽や舞踊の学問的研究を通して、社会に資する人材の養成を目的とします。音楽史・民族音楽学・舞踊芸能論の三つの研究領域があり、沖縄をはじめ、世界各地の音楽を対象とします。専門の研究領域だけでなく、隣接する研究領域の知識を身につけ、新たな知見と研究方法を確立し、修士論文を提出します。

作曲専修

作曲専修では、学部で培った作曲の基礎的な力を元に研鑽を重ね、独自の創作表現へと広げ高めていく意欲が求められます。作曲演習では、作品分析・研究を通して視野を広げ、作曲実習における実作能力の習熟成果として修士作品を制作し、副論文を提出します。各年次には、提出作品を実音にする試演の機会が与えられます。



琉球古典音楽専修 修士演奏



琉球舞踊組踊専修 修士演奏



声楽専修 オペラ総合実習



ピアノ専修 協奏曲研究



管弦打楽専修 協奏曲研究(チューバ)



音楽学専修 合同ゼミ風景



作曲専修 ゼミ風景

芸術文化化学研究科 博士課程



芸術文化化学研究科 HP

【教育研究上の目的】

芸術文化化学研究科は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的とする。(大学院学則第5条の3号)

■教育理念・目標

芸術文化化学研究科は、本学大学院の博士課程です。

本学大学院は建学の理念に基づき、伝統芸術・民族芸術の汎アジア的基盤での育成・研究をはかり、美術・音楽・芸能等諸芸術文化の国際的な比較研究の場を展開して、高度な専門知識と能力を有する指導者を育成すると同時に、とりわけ東アジア・東南アジアを結ぶ東アジア太平洋文化圏の伝統芸術の継承と新たな芸術の創造に資する国際的視野での総合的な芸術文化研究機関です。

■ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

芸術文化化学研究科では、研究指導を受け所定の単位を修得し、博士論文等の審査及び試験に合格した学生には、博士課程の修了を認定し、博士(芸術学)の学位を授与します。

比較芸術学研究領域・民族学音楽研究領域における博士論文、芸術表現研究領域における博士論文及び研究作品・研究演奏は、1) その専門分野において高度な研究内容であること、2) 創造的、独創的な研究であること、3) その研究が国際的にも貢献できること等の観点から審査します。

■カリキュラム・ポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

芸術文化化学研究科のカリキュラムは、芸術文化についての幅広い見識と、自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を養うような教育を行います。博士(芸術学)の学位を取得できるよう、博士論文等の完成を目標とした研究指導を中心に据え、実技と理論との結びつきを重視した本学ならではの科目である芸術表現総合比較研究Ⅰを必修とし、その他複数の領域の科目を自由に選択するように授業科目を編成しています。

■アドミッション・ポリシー

(入学者受入れの方針)

1. 教育の理念

本学の基本的な理念は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追求することにあります。これに基づき、芸術文化化学研究科は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的としています。

2. 本研究科の求める人材

芸術に関する基礎的な知識を備え、自立した研究者となるための意欲と能力と展望を備えていることを求めます。

3. 入学者選抜の実施

2)に掲げる人材を受け入れるため、専門的な学力試験、研究課題に関する口述試験を実施しています。

●専攻案内

本学大学院の芸術文化化学研究科(博士課程)芸術文化学専攻に比較芸術学と民族音楽、芸術表現の三つの研究領域が設定しており、それぞれの領域において専門の研究分野が設置されています。

学生はいずれかの各分野に属して研究指導を受け、必修科目「芸術表現総合比較研究Ⅰ」(2単位)及び選択科目を2科目(8単位)以上履修し、博士論文等(博士論文、研究作品又は研究演奏)の審査に合格すれば修了することになります。

●比較芸術学研究領域

比較美学・芸術学の分野では、従来における西洋美学への偏重を反省しつつ、多様な美意識を体系的な見地から比較研究することによって、それぞれの特質及び形成原理を解明することを主要な課題としています。とりわけ、芸術体験の価値構造の分析から導かれる諸契機により、東西の美意識を比較類型学的に解明することが目指されます。

芸術批評史の分野では、作家による作品の歴史という従来ありがちな美術史学の研究方法の限界を反省しつつ、美術作品を生み出してきた思想的、歴史的な背景を厳密な史料的把握を通じて、いわば精神史としての美術史を人文科学の諸方法を用いて構築することが目指されます。

民族芸術文化学の分野では、諸民族における芸術と文化の役割について可能な限り実際のフィールドワークや実物資料、原資料に即して実証的研究を行います。例えば諸民族の工芸美術の比較研究、文学の比較研究、琉球の伝統芸能・伝統文化の研究、琉球史と世界各地の歴史との比較研究などを美術史学、歴史学、考古学、文学、文化人類学の諸方法を援用しつつ研究していきます。

●民族音楽研究領域

音楽史の分野では、琉球、日本、東洋及び西洋の音楽について歴史的研究を行います。古文書古楽譜の分析解釈に加えて、今日まで伝承されている音楽を対象とする場合は、その音楽の実践に即した研究方法を探索します。

民族音楽学の分野では、主に対象の中心を琉球の古典音楽に置き、琉球独自の言語表現による文学とも関わり、その音楽的構造や形態との関連を研究します。あわせて琉球音楽の歴史的形成に寄与した東南アジア諸国の諸民族の音楽を民族音楽学の視点から研究します。

民族芸能論の分野では、音楽を主体とする諸民族の芸能を音楽学また文化人類学の視点から学術的に研究する分野です。沖縄の伝統的な組踊や琉球舞踊・民俗芸能を中心に、アジアの舞踊・演劇を広く研究対象とします。

●芸術表現研究領域

造形芸術の分野では、芸術家、研究者、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、人間の知的文化的活動の一つとしての造形芸術の意味と役割について、作品制作と研究を通して伝える能力を身につけます。

音楽芸術の分野では、芸術家、研究者、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な舞台表現・作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、社会・環境に根差した表現活動としての音楽芸術の意味と役割について、舞台表現・作品制作と研究の両面から伝える能力を身につけます。

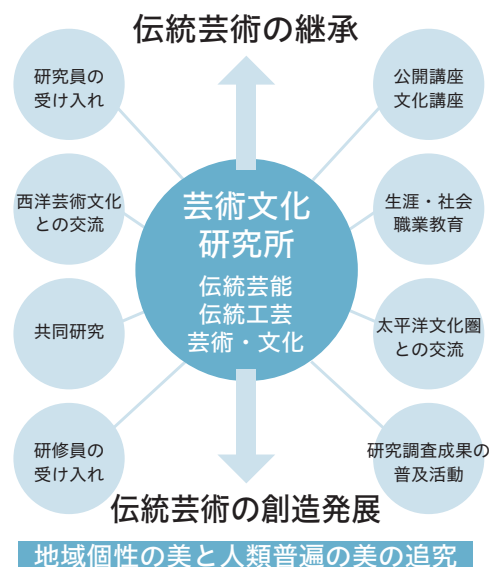
芸術文化研究所 (金城キャンパス)



芸術文化研究所は建学の理念等に基づき、地域社会との関連に重点を置いた調査研究活動のほか、一般県民を対象とした講座や移動大学といった地域貢献活動を行っています。講座は学生も受講可能で、沖縄学の講座では単位の取得もできます。

芸術文化研究所設置の理念

開かれた大学を目指して



● 芸術文化研究所の目的

伝統芸術の特色の解明や一般県民への研究成果の普及啓発を通じて、後継者育成を量り、伝統文化の創造と発展に寄与すること

● 実施事業

地域の伝統芸術およびその関連分野の調査・研究／伝統芸能の後継者の育成指導に関する技的研究・調査／文献および資料の収集・活用／研究成果の発表・公開講座の開催／研究会活動／国際交流／その他研究所が必要と認められた事項

専任教員 | 芸術文化研究所

久万田 晋 所長・教授 (伝統芸能部門)
 鈴木 耕太 准教授 (芸術文化学部門)
 新田 摂子 准教授 (伝統工芸部門)



文化講座「現代沖縄諸芸術の変遷」の動画



「移動大学 in 城辺」織あそび教室の様子

- 1 移動大学は、小中学生を主な対象として離島地域で開催する事業で、県の離島地域振興計画に位置づけられています。美術工芸、音楽、空手、沖縄文化といった各種プログラムを体験講座として実施しているほか、琉球芸能等の公演、地域との交流を行いました。令和4年度は宮古島市城辺へ赴き、織教室や空手教室などを開講しました。
- 2 しまくとぅば実践教育プログラム開発事業を行っています。

【過去5年間の実施事業一覧】

平成30年度	移動大学 in 波照間島、沖縄学「琉球・沖縄の技術史」、文化講座「古文書を読もう。」「バリ島のガムラン音楽」、「子どものためのバリガムラン体験講座」、「ケチャットのワークショップ」、「ジャワ島のガムラン音楽」、「子どものためのジャワガムラン体験講座」
令和元年度	移動大学 in 伊江島、沖縄学「組踊を多角的に考える」、文化講座「琉球藍の建て方、染色法を学ぶ」、「組踊を読む ひらがな講読講座」、「古文書を読もう。」「バリの男性舞踏家 イ・マデ・ステジャ氏特別講座～男性舞踊の基礎について～」、「バリ島のガムラン音楽」、「子どものためのバリガムラン体験講座」
令和2年度	移動大学 in 伊平屋島 (オンライン開催)、沖縄学「首里城と琉球・沖縄文化」(オンデマンド開催)
令和3年度	移動大学 in 伊平屋島、沖縄学「沖縄芸能のダイナミズム」(オンデマンド開催)、文化講座「腰機入門」
令和4年度	移動大学 in 城辺、沖縄学「現代沖縄諸芸術の変遷」(オンデマンド講座 美ら島おきなわ文化祭連携事業)、文化講座「腰機入門 - 花織編 -」「バリガムラン体験講座」 ※芸術文化研究所の事業の詳細については、ホームページをご覧ください。



芸術文化研究所 HP

附属図書・芸術資料館 (当蔵キャンパス)



附属図書・芸術資料館 外観

主な施設	
地下2階	収蔵庫(前室含む) 365㎡ 書庫 241㎡
地下1階	荷解室 29㎡ 閲覧室 358㎡
地上1階	簡易書庫 54㎡ 多目的室 90㎡ ラーニング・コモンズ 31㎡
地上2階	第1展示室 354㎡ 第2展示室 139㎡ 第3展示室 83㎡

蔵書数 (2022年3月31日現在)	
図書 82,272冊	和書 60,191冊
	洋書 19,356冊
	楽譜 2,725冊
雑誌 1,722種	和雑誌 1,619誌
	洋雑誌 103誌
視聴覚資料	8,504点

附属図書・芸術資料館は芸術関係図書資料等を重点的に収集・保存している図書館と、国の重要文化財に指定されている資料を含む「鎌倉芳太郎資料」や、台湾先住民の織布を集めた「岡村吉右衛門資料」、アジアの織物を集めた「柳悦孝コレクション」など貴重な資料が収蔵されている芸術資料館からなる施設です。

図書館には、開架閲覧室、ラーニング・コモンズ、多目的室があり学生の自主的な学習の場として活用されています。図書館ではOPACシステムで蔵書検索が行えますので、効率よく図書が見つかります。また、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用が可能です。専門スタッフもおりますので、お気軽にお声かけください。

芸術資料館には、3つの展示室があり、館主催の企画展のほか、教員、学生等による企画展や個展などが活発に開催され、芸術表現の場として活用されています。



図書館 開架閲覧室

大学収蔵コレクション



「絹白地松皮菱葵檜扇団扇菊牡丹文様紅型踊衣裳」
城間栄喜 1963年 絹/紅型/着物

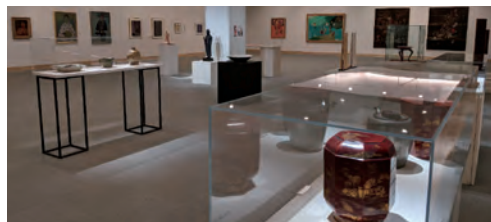


「赤絵鳥紋輪花皿」 作家不明 制作年不明 陶磁器 「東道盆」 金城唯喜 制作年不明 漆/沈金



「ミセレーレ 52番」 ジョルジュ・ルオー
1926年 版画

主な企画展覧会



2021年度 企画展

施設紹介

※（ ）は施設のあるキャンパス名です。

※「芸術文化研究所」「附属図書・芸術資料館」は別頁（P45、P46）参照。



管理棟・一般教育棟 (当蔵)

事務室のほか、一般教養を学ぶための教室があります。100名ほどが入れる大講義室やコンピュータ教室、LL教室も備えています。音楽棟とは芝生の中庭を挟んで向かい合っており、ベンチで休んでいる学生も見られます。



音楽棟 (当蔵)

首里城と龍潭池のすぐそばに建てられており、絶景を眺めることもできます。講義室、演習室、練習室、楽器庫のほか洋楽と琉球芸能の大合奏室と小合奏室がそれぞれ2つずつ、琉球舞踊の演習室が1つあります。



福利厚生棟 (当蔵)

地下1階地上2階建てになっており、地下は学生食堂、1階のロビーは学生のフリースペースになっているほか、保健室、学生相談室、進路コーナー、国際交流室、留学生のための日本語教室の部屋となっています。2階は博士課程の研究室と学科室、図書室になっています。



奏楽堂 (当蔵)

琉球芸能や洋楽、オペラの公演ができるホールのほか、講義室、合奏室、中合奏室、演習室、打楽器室、コントラバス室、録音室を兼ね備えたスタジオがあります。

授業で使用するほか、年間40回以上の公演に使用され、学生の練習場所としても活用されています。



体育館 (当蔵)

板張りのアリーナとトレーニング用具のあるホールからなる体育館は、健康・運動科目の授業で使用するほか、バドミントン等のサークル活動や学生のレクリエーションの場としても活用されています。運動だけでなく、壁面の大鏡を利用して舞踊の練習の場としても使っている学生も多いようです。



美術棟 (当蔵)

絵画専攻と芸術学専攻の学生が学ぶ教室があります。入り口を入ると開放的な空間にガラスで囲まれた石膏像資料室があり、大きな石膏像に圧倒されます。実習室、講義室のほか版画工房、写真工房を備えています。



デザイン中央棟 (崎山)

学年毎の実習室のほかプロダクト工房作業室、素材加工室、セラミック室、設計製図室、プリント工房、映像スタジオ、紙漉き工房、腐蝕室、製版室、木工房、金属工房等といった幅広くデザインを学ぶために必要な設備があります。



工芸棟 (崎山)

染色実験室や染工房、織工房がある染分野、織分野のスペースと漆芸の実習室、塗部屋、陶芸の実習室、制作室焼成室、石膏室があります。学生は各自、自分に与えられた十分なスペースで個性的な作品を制作しています。



彫刻棟 (崎山)

塑造室、石彫実習室、テラコッタ・鋳造室、金属実習室、金属室、木彫室等を備えています。開放的な空間の中、それぞれの作業音が重なり合い、感性豊かな作品が生まれています。

国際交流

海外姉妹校との交流

芸術・学術交流協定締結大学（姉妹校）

国際的視野に立った芸術家・研究者を育成するために、海外の大学と芸術・学術交流協定を結び、学部・大学院の優秀な学生を対象とした交換留学を推進しています。また、協定大学とは、展覧会や演奏会活動等を含めた研究者間の交流にも積極的に取り組んでいます。

姉妹校（7か国・地域 11校）

福建師範大学（中国）
中国音楽学院（中国）
ミュンヘン造形芸術大学（ドイツ）
ブレーメン国立芸術大学（ドイツ）
C. モンテベルディ音楽院（イタリア）
ミラノ・ビコッカ大学（イタリア）
チェンマイ大学美術学部（タイ）
国立台北芸術大学（台湾）
国立台湾芸術大学（台湾）
インドネシア国立芸術大学デンパサール校（インドネシア）
ハワイ大学マノア校（アメリカ）
<contract renewal >令和4年11月に、福建師範大学との協定が更新されました。今後は、大学院生の他に学部生も福建師範大学への交換留学に挑戦可能です。

交換留学

2022年度は、本学の学生をブレーメン国立芸術大学へ1名、国立台北芸術大学へ2名、ミラノ・ビコッカ大学へ1名派遣しました。また、国立台湾芸術大学から3名、チェンマイ大学から1名の留学生を受け入れました。

姉妹校への交換留学は、短期留学（半年～1年）の選択肢として、学生から高い関心が寄せられています。協定校への交換留学の場合、サポート体制が充実していると同時に、通常の私費留学などに比べて、いくつかのアドバンテージがあります。

例えば、留学中は休学ではなく、本学に在籍中とみなされるため、その期間は卒業までに必要な在学期間に算入されます。留学先で取得した単位を本学の単位として認定できる可能性もあります。履修計画によっては留学期間を含めて4年間で卒業することが可能です。さらに、授業料は本学に納めるだけでよく、相手校への授業料は免除となります。短期間とはいえ、専門分野の知識や経験の獲得にとどまらず、留学中に得た異文化体験や人的交流は、留学経験者のその後の修学やキャリアに大きなインパクトを与えています。

在学中に積極的に海外からの留学生や留学した先輩と



後期受入留学生の学長表敬訪問

交流を深め、より多くの学生が姉妹校への交換留学へチャレンジしてくれることを期待しています。

交換留学生の声

造形芸術研究科絵画専修 佐藤ゆりさん
派遣大学：国立台北芸術大学
(2022年10月～2023年1月)

台北芸大では「素描」という授業を履修しました。日本でいうデッサンやドローイング、クロッキーのようなイメージのものをたくさん描く授業ですが、先生が水墨画を専門としている方で、墨で描くことをメインとしている点が台湾ならではの授業だと感じました。芸大生が海外留学するメリットは、海外のアートとかわることで自分の視野が広がることです。そして、自分ひとりで決断して海外に飛び出すことは、芸術に限らず、語学や生活スタイルなど様々な壁を乗り越えることになるので、人間的に大きく成長できるし、今後の人生において大きな自信になると感じています。



国立台湾芸術大学 蔡文堯さん
受入専攻・専修：造形芸術研究科工芸専修
(2022年4月～2022年9月)

大学時代に焼き物に興味を持ち始め、沖縄には焼き物、織物、染物などの特殊な文化があることを知りました。特に陶芸コースには台湾では見たことのない登り窯があることを知り、ここで陶芸の技術や考え方、登り窯を使った焼き方、沖縄の歴史や文化を学びたいと思いました。先生方はとても親切で、どんな質問にもわかりやすく答えてくださり、陶芸に関する技術、作品論、展覧会の計画など、すべてにおいて指導してくださいました。技術を学ぶだけでなく、沖縄の文化や日本人の生活や付き合い方を知り、素晴らしい交流を経験することができました。



蔡文堯さん個展
(9月5日～9日)の風景

チェンマイ大学教員招聘授業（彫刻）

彫刻専攻では姉妹校のチェンマイ大学美術学部彫刻科よりウドム・チムパディー准教授を招いて、学部1～3年生・大学院1年生による「後期成果展」と「第34回卒業・修了作品展」の講評および「彫刻特論」の授業を行いました。彫刻特論では講義を通して東南アジアの特色ある彫刻表現の知見を深め、講評では学生が英語で自作のプレゼンを行うなど、授業が活発な国際交流の場となりました。



国際交流事業等の紹介

イタリア ミラノ・サローネへの出展

世界最大級のデザインイベントであるミラノ国際家具見本市 (Salone del Mobile.Milano/ 通称ミラノ・サローネ) が 2022 年 6 月 7 日から 12 日に開催され、サローネ・サテリテ (Salone Satellite) に出展しました。

ミラノ・サローネは、「サローネ国際家具見本市」を中核として 6 日間の会期中に、インテリア、照明、オフィス、キッチン、バスルーム等各部門の複数の見本市が同時に開催される世界最大の家具見本市ですが、中でも 1998 年に始まったサローネ・サテリテ (サテライト) は、世界の 35 歳以下のデザイナー、建築家もしくはそれを志す学生等を対象とした登竜門的な展示会です。そのうち、世界公募の国際審査を通過したデザイン・工芸分野の学校や美術系大学 20 校のみが出展を許される部門に、本学が日本代表 2 校の一つとして選出され、染・織・陶芸・漆芸の各分野で現在活動している本学在学・卒業・修了生の若手 11 人が出品展示しました。また U35 部門には本学のデザイン専攻からも選ばれ、修了生の浦崎翔太さんの作品はイタリアの全国紙 La Repubblica で紹介されました。



工芸とデザインの展示ブース



ミラノ・サローネ会場風景

沖縄県海外移住者子弟等留学生の受入

本学では、1992 年から沖縄県の海外移住者の子弟、いわゆる県費留学生を受け入れ、本学の学生や教職員との交流を推進しています。これまでに、琉球芸能、工芸、デザイン等の分野に沖縄県出身移住者子弟を迎え入れ、沖縄の歴史・文化・伝統芸能の理解促進の機会を提供してきました。2022 年には、6 年ぶりに世界のウチナーンチュ大会が開催されましたが、まさに好タイミングで米国ハワイから 1 名 (琉球芸能専攻、三線の研修) とブラジルから 1 名 (工芸専攻、陶芸の研修) の県費留学生を迎えることができました。本学は、世界中の様々な地域で活躍するウチナーンチュの子弟と芸術活動を通してネットワーク広めていきます。

国際交流室

本学に設置されている「国際交流室」では、留学生の支援を中心に、姉妹校留学プログラムの運営や異文化理解を促進する教育プログラムの開発、教育・学術交流のための国際交流活動の支援などに取り組んでいます。その活動の拠点となるのが、福利厚生棟 1 階にある国際交流室です。国際交流室には国際交流コーディネーターが配置され、受入留学生の支援はもとより、本学から姉妹校等へ留学する学生の様々な相談に応じています。

国際交流室では、姉妹校への交換留学を希望する学生の情報収集をサポートし、申請時には手続き等のアドバイスや支援を行います。姉妹校への留学に当たっては、学内でのオリエンテーションを実施し、安全に渡航できるよう準備をします。また、受入留学生に対しては、留学生オリエンテーションを開催し、履修や学生生活に関する情報を提供することによって、日本での生活に一日でも早く慣れるようサポートをしています。留学先のコーディネーターと連携しながら、本学から派遣される学生や姉妹校から受け入れる留学生が、安心して有意義な留学生活を送れるよう組織的なサポートを展開しています。

また、留学生支援の一環として、チューター制度を設置しています。日本人学生やすでに在籍する留学生がチューターになって、留学生および留学予定者に対し、一定期間、サポートを提供する活動です。チューター活動を通して留学生と交流をすることが、留学を考える一歩となることもあります。

国際交流室では、相互理解を深めるために、留学生との交流を推進しています。異文化交流会や留学報告会などの活動を通して、日本人学生と留学生が互いの文化に関心を寄せ、理解し尊重しあう「多文化キャンパス」を目指しています。福利厚生棟 1 階の国際交流室は、留学生や留学・海外に関心のある学生はもちろん、グローバルな芸術活動に関心のある皆さんが自由に立ち寄り交流する空間です。



夏の異文化交流会終了後の様子



新年異文化交流会の様子

卒業後の進路

就職への取り組み

造形芸術及び音楽・芸能の専門教育を行う本学では、次代を担う若き表現者を育成することを目指しております。一方、芸術大学ならではの独自性や創造性を企業、学校現場、博物館、美術館等さまざまな場所が求めており、本学で学んだ専門的スキルを余すことなく大いに活かす卒業生も少なくありません。

また、美術、工芸、音楽の教育職員免許状や博物館学芸員の資格も所定の単位を履修すれば取得できますので、多くの卒業生が学校教育の現場や、博物館、美術館などでも活躍しています。

本学では、就職を希望する学生に応えるため、芸術大学としての進路相談や就職ガイダンスの実施、各種セミナーに取り組む他、「自分のキャリア（進路）をデザイン（設計）するにあたって様々な可能性に目を向けると同時に、作家や演奏家としても自立できるような技術や知識を身につけること」をテーマとした講義を開講しています。

就職支援アドバイザーの取り組み

本学では学生の進路、就職に関する相談については、進路情報コーナーにて、就職支援アドバイザーが対応しています。沖縄の独特の文化と本学ならではの大らかな環境の中で育まれた、芸術に対する真摯な思いと豊かでしなやかな感性や創造性が社会の中でもさらに紡いでいけるよう、一人ひとりが納得度の高いキャリア形成に繋がるようなきめ細かなサポートをしています。

また、本学学生の専門性を活かせるクリエイティブな職種・業種を中心として就職先を開拓し、本学学生にとって興味深い企業とのマッチングを図るほか、就職意識を醸成するさまざまな取り組みをオンライン、対面で行うことにより、多くの学生が希望する仕事に就けることを目指しています。

【具体的な取り組み】

○進路・就職相談

- ・履歴書やエントリーシートの書き方・添削
- ・面接対策
- ・自己分析・業界研究・企業研究
- ・就職活動に関する疑問や、社会に出る不安解消、望むキャリアの構築などキャリアカウンセリング全般

○自己分析

○求人情報の提供

○各種就職ガイダンス、ワークショップ、セミナー等の実施

○書籍の貸出

○学内合同企業説明会、個別企業説明会の開催

○学外で行われる企業合同説明会や行政の行う大学生向け就職支援事業など、学生にとって活用しがいのある情報の把握、及び情報提供

○県内・県外企業求人開拓

○ポートフォリオの作り方指導



学内合同企業説明会

上記の活動に加えて、キャリア教育教員や外部就職支援機関（ハローワークや県キャリアセンター等）とも連携し、各学生の就活状況の情報共有を図り、共同で支援を行うことにより、多角的な観点から学生支援を行っています。

小さい大学ならではの学生一人ひとりへのきめ細かなサポートを実施しております。

卒業生の進路情報 (2021年度)

	美術工芸学部	音楽学部	大学院
卒業生数	75	33	30
進学者	24	10	4
就職者 (作家・音楽活動含む)	30	11	16
その他	21	12	10

※その他（就職活動、進学準備、留学準備、進路未報告を含む）

主な就職先

美術工芸学部 / 大学院

絵画専攻

■沖縄県立博物館・美術館 ■南風原文化センター ■足立美術館（学習支援） ■那覇造形美術学院 ■櫻井事務所 ■JCC ■楽樹タナストーン ■フリーカメラマン ■沖縄こどもの国ワンダーミュージアム ■アカラギャラリー（ボクネン美術館） ■ムービータイム ■丸正印刷 ■ドラックストアモリ ■九州陶器 ■モノクラム ■すえぞう ■沖縄アミークス国際学園 ■SOLA 沖縄学園 ■TLO ■Summer Time Studio ■中学校・高等学校教員 ■沖縄県立芸術大学 ■東京藝術大学 ■愛媛大学

彫刻専攻

■美術院国宝修理所 ■エム・ツー・フォトグラフィー ■鬼亮 ■ROAD WORKS ■クラフティズム ■オリオンビール ■I.D.A インターナショナルデザインアカデミー ■MIC ■パル ■中嶋プランニング ■金沢卯辰山工芸工房 ■クリエイトアイエムエス ■クロノス ■自営業 ■山口大学 ■名古屋造形大学（非常勤） ■共立女子大学（非常勤） ■小学校・高等学校教員 ■沖縄県立芸術大学

芸術学専攻

■九州国立博物館 ■彫刻の森美術館 ■沖縄県立博物館・美術館 ■那覇市歴史博物館 ■浦添美術館 ■美ら島財団 ■前橋文学館 ■真鶴町立中川政一美術館 ■九州芸文館 ■新潟市会津八一記念館 ■名護博物館 ■茅野市民館 ■GODAC ■IBM ■イオン北海道 ■桜坂劇場 ■NECラベックス ■鹿児島書籍 ■JBFデザイン ■平山印刷 ■永昌堂印刷沖縄編集センター ■ネットヨタ香川 ■NHK沖縄 ■光文堂コミュニケーションズ ■いえらぶ琉球 ■中学校・高等学校教員 ■国家・地方公務員

デザイン専攻

<グラフィック系> ■SCOOP ■博報堂プロダクツ ■エマエンタープライズ ■宣伝 ■シュガートレイン ■サン・エージェンシー（以上広告代理店） ■フジタクリエイション（アパレルデザイン） ■光文堂コミュニケーションズ ■平山印刷（以上印刷）

<映像系> ■PA ワークス（アニメーション） ■日本アニメーション ■モノクラム（WEB） ■フォトアートたかの ■サマースタジオ ■テクロス（ゲーム制作） ■沖縄テレビ ■沖縄テレビ開発（テレビ企画・制作）

<プロダクト系> ■GK デザイングループ（プロダクトデザイン） ■一般社団法人ものづくりネットワーク沖縄（製造） ■沖縄三越環境デザイン（家具） ■富士ファニチア（家具）

<建築・スペース系> ■国建 ■デザインスタジオ琉球楽団 ■アレックス ■コンセプト（以上建築設計） ■スタプランニング ■船場（以上店舗デザイン） ■ナグモデザイン事務所（ランドスケープ）

<教育> ■兵庫県立龍野北高校 ■特別支援学級臨時教員 ■浦添市児童センター ■小学校・中学校・高等学校教員 ■名古屋芸術大学（非常勤） ■沖縄県立芸術大学

<その他> 琉球銀行

工芸専攻

■紅型工房 ■織物工房 ■大嶺工房（陶芸工房） ■常秀工房（陶芸工房） ■国場陶芸（陶芸工房） ■工房 壱（陶芸工房） ■育陶園（陶芸工房） ■糸満工芸（陶芸工房）

■北窯（陶芸工房） ■Aki-art（陶芸工房） ■陶芸作家（自営） ■VIVACE（陶芸インストラクター） ■OVER LAND CLUB（陶芸インストラクター） ■体験王国むら咲むら（陶芸インストラクター） ■アーバン（陶芸インストラクター） ■飛騨産業 ■凸版印刷 ■任天堂 ■中外国島 ■三星染色 ■電通沖縄 ■日比谷花壇 ■カメラマンアシスタント ■アパレルメーカー ■会社経営（芸能プロダクション） ■ヨーガンレール ■那覇造形美術学院 ■JICA ■INAX ■白山陶器 ■琉球朝日放送（美術スタッフ） ■リウボウインダストリー ■洋菓子無花果（パティシエ） ■セルフサポートセンターぴゅあ ■アッシュ・ペー・フランス ■ゆう工房 ■雅織工房 ■MCS ■窪田織物 ■島津漆器彩色工房 ■オンデーズ ■久留米絨織元下川織物 ■UT エイム ■ライフデザイン ■774 nanashi ■カイハラ ■書道教室 ■沖縄県工芸振興センター ■南風原文化センター ■小学校・中学校・高等学校教員 ■有田窯業大学校教員 ■常滑市陶芸研究所教員 ■沖縄県立芸術大学

音楽学部 / 大学院

音楽表現専攻

■ヴァイマール歌劇場専属歌手 ■レックリングハウゼン州立シンフォニーオーケストラ ■マインツ市祝典オーケストラ ■東京交響楽団 ■山形交響楽団 ■大阪交響楽団 ■広島交響楽団 ■東京吹奏楽団 ■神奈川県警察音楽隊 ■陸上自衛隊第15音楽隊 ■航空自衛隊 ■ヤマハ ■ヤマハ音楽振興会 ■ヤマハ音楽教室 ■カワイ音楽教室 ■新国立劇場合唱団員 ■鹿児島国際大学講師 ■琉球朝日放送 ■SDA 東西学園 ■アーツポート企画 ■三越 ■三井住友銀行 ■熊本銀行 ■KAJIMOTO ■日本食研 ■郵便局 ■市役所 ■小川楽器 ■ピアノ講師 ■ミュージックプラザ ■十勝毎日新聞 ■ヤマダヤ ■PVH ジャパン ■とさでん交通 ■名古屋市文化振興事業団 ■コジマ ■なすの楽器 ■グロースエキスパートナース ■ユーズテック ■音楽教室（自営） ■フリーランス演奏家 ■デトモルト音楽大学非常勤講師 ■洗足学園音楽大学非常勤講師 ■県立特別支援学校教員 ■小学校・中学校・高等学校教員 ■沖縄県立芸術大学

音楽文化専攻

■国立劇場おきなわ ■那覇バス ■花水木コーポレーション ■琉球朝日放送 ■琉球放送 ■伊豆急行 ■ザ・ブセナテラス ■モトフリークウィリー ■県内舞台製作会社 ■楽譜製作工房 ■浦添市職員（行政職） ■小学校・中学校・高等学校教員 ■沖縄県立芸術大学

琉球芸能専攻

■国立劇場おきなわ（芸術監督・囃子員） ■NPO 法人団体 ■沖縄市民小劇場あしびなー ■沖縄タイムス社 ■組踊・琉球舞踊小道具製作工房 ■三線製作・店舗経営 ■三線漆塗・店舗経営 ■飲食店経営 ■沖縄美ら島財団 ■沖縄富士通システムエンジニアリング ■ルネッサンスリゾートオキナワ ■Pix ■アカネクリエイション ■那覇空港ビルディング ■沖電工 ■国際日本文化研究センター ■沖縄県南部医療センター看護師 ■介護士 ■郵便局職員 ■古本興業 ■柳都振興 ■音楽活動（自営） ■琉球大学非常勤講師 ■市町村職員（職員・臨時） ■沖縄県公立養護学校教師 ■小学校・中学校・高等学校教職員 ■沖縄県庁職員・臨時的任用職員 ■豊見城市社会福祉協議会 ■沖縄県立芸術大学

活躍する卒業生



兼島 風希
(かねしま ふき)



漆器製造(職人)

2016年 美術工芸学部デザイン工芸学科工芸専攻漆芸分野 卒業
2018年 造形芸術研究科生活造形専攻工芸専修漆工研究室 修了
2018年 沖縄県工芸振興センター 臨時的任用職員
2020年 株式会社角萬漆器 入社

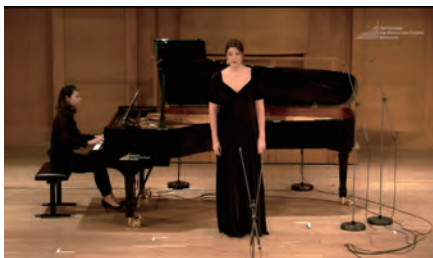
私は大学の4年間と大学院の2年間、沖縄県立芸術大学で漆芸を学び、今は漆芸職人として働いています。

漆芸専攻では、日本と琉球それぞれの漆芸技術を学び、また技術と共に歴史や文化についても教わりました。私はその中で、工芸とはそれぞれの地域の歴史、文化に根差して存在するものであり、それを繋げていくためには様々な努力が必要だと考えるようになりました。その中でも工芸という文化には伝統という基盤が必要だという考えが強くなり、地元沖縄の漆芸文化を「伝統」の側面から支えていくことが出来ればと、職人という職業に就くことを選びました。

大学では基本的な漆芸の技術から創造的な作品制作まで多くの技術指導を受け、その経験は私の基盤となっています。これからも大学で学んだことを生かし、沖縄の漆芸に寄与していきたいです。



内海 博子
(うつみ ひろこ)



ピアニスト、ミュンヘン国立音楽・演劇大学非常勤講師・伴奏員

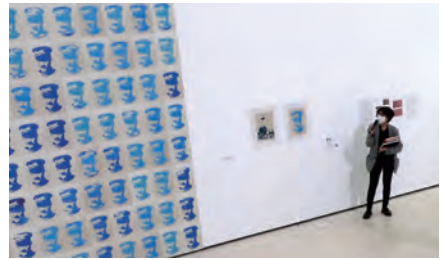
2015年 音楽学部器楽専攻卒業
2018年 ミュンヘン国立音楽・演劇大学大学院歌曲伴奏科卒業
2022年 日独交流声楽コンサート企画・出演(ニンフェンブルク城・ミュンヘン)
2021/2022年 リーダーイベント出演(パレット市民劇場・沖縄)

沖縄の暖かい気候や文化、学校のアットホームな雰囲気から惹かれ本学への進学を決めました。在学中は、ピアノソロをはじめ、声楽の伴奏や室内楽等の舞台上で演奏をする機会に恵まれました。幼いころよりアンサンブルが好きだった私は、《Mabui III》~2台のピアノのための委嘱作品の初演に携わらせて頂いたことや、大学主催のオペラ公演にて演奏をしたことから、アンサンブルへの思いが再燃しました。

このような大学が与えてくれた様々なチャンスや経験が更なる研究意欲を掻き立て、ドイツへの留学を決意しましたが、本学の多彩なカリキュラムや恩師から得た知識や経験は、今も続く音楽人生の基礎となっています。ミュンヘン音楽大学大学院を修了し、現在は同大学で非常勤講師・伴奏員として働きながら演奏活動を続けています。これからも更なる高みを目指して精進して参ります。



大城 さゆり
(おおしろ さゆり)



沖縄県立博物館・美術館 美術館学芸員

2013年 大学院造形芸術研究科比較芸術学専攻比較芸術学専修修了
2013年 那覇市歴史博物館 非常勤
2014年 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館 非常勤
2015年 沖縄県立博物館・美術館 非常勤
2019年 現職
2022年 復帰 50年コレクション展企画・担当

沖縄の美術・工芸史を研究したいと芸術学専攻へ進学したものの、高校まで地元の歴史や芸術を学ぶ機会が乏しかったため、在学中は、足元の文化に対して自分がいかに無知・無関心に過ごしてきたかを痛感する日々でした。

学部では織物に興味があり、先生方に相談して短期間ながら他専攻の染織分野の授業を受講することが叶いました。実技を通して素材や技法の理解を深め、さらに附属図書・芸術資料館の協力で染織作品調査の実践的な経験も得られ、これが現在の仕事の礎となっています。

修士課程では研究対象を絵画へ変更したことで大いに悩みましたが、指導教官の小林純子教授には沖縄と日本の近現代美術史について懇切丁寧に指導いただき、県外から専門の研究者を呼んだ集中講義も受けられ、今振り返っても、随分と贅沢な研究環境であったと思います。

先輩・後輩との交友も刺激的で、修了後に「セーラムーン研究会」を立ち上げて論集を発刊したのは楽しい思い出です。

学芸員となって以降は、戦後に沖縄文化を復興・創造してきた先人への尊敬が募る一方で、今はできるだけ多くの方に沖縄美術の魅力を紹介していきたいと考えています。



寺園 未希
(てらぞの みき)



国立劇場おきなわ 調査養成課 調査資料係

2018年 音楽学部音楽文化専攻音楽学コース卒業
2018年 沖縄県立芸術大学 音楽文化専攻 事務補助
2019年 西洋楽器と琉球楽器によるコラボレーション公演「感」—平成が感じた琉歌—を企画。

在学中は、関心を抱いた事には積極的に取り組み、野外演奏会、美術展、マーチングパレード、離島へのフィールドワークまで、仲間と様々な事を企画・実践しました。美術・音楽の芸術ジャンルを越えて交流することで、新たな発想が生まれました。学生が主体的に取り組む活動に対して、専門性の高い教授陣から直接アドバイスをもらえる機会も多く、有意義な時間を過ごすことができました。

現在は、劇場内で調査研究に従事するセッションで働いています。芸能史年表や劇場が発行する書籍の編集、芸能に関する展示・講座の企画運営を行っています。今年度は、研究公演と銘打ち、これまでの研究を舞台化することが叶いました。

切磋琢磨し、アイデアを出し合ったかつての学友は「出演」「運営」という立場で、共に舞台に携わる仕事仲間になっています。

学費・奨学金

【入学科・授業料等】

※令和5年4月1日現在

区分	授業料聴講料	入学科	
		県内居住者	その他の者
学部学生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
大学院生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
研究生	月額 29,700円	84,600円	153,600円

備考/県内居住者とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。

(1)入学の日の1年以前から引き続き県内に住所を有する者。(2)入学の日の1年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者または1親等の親族のある者。

※在学中に授業料改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

※高等教育の修学支援新制度の対象者のほか、法人の規定に基づいて入学科、授業料が減免された者は、その額が適用されます。

※大学院に入学する者のうち、社会人等で履修期間を延長する長期履修制度の適用が認められた者は、その期間に応じた授業料が適用されます。

■授業以外に必要な経費

1. 美術工芸学部

実習経費（4年間分）は右表のとおりです。

入学時に一括して納入し、過不足が生じた場合は入学後調整することになります。

※卒展経費含む

2. 音楽学部

○琉球芸能専攻 琉球古典音楽コース 約80,000円（黒朝・ハチマキ・長着稽古着代）

○琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コース 約15,000円（長着稽古着代）

3. 学外研究費

美術工芸学部

各専攻とも2年次あるいは3年次に予定している必修科目の経費として、180,000円（芸術学専攻は160,000円）を入学時に納入し、過不足生じた場合は、入学後調整することになります。

音楽学部

琉球芸能専攻では、3・4年次に予定している選択科目の経費として、実施年次に約180,000円が必要となります。

音楽文化専攻沖縄文化コースでは、3年次に行われる必修科目の経費として、県外施設で研修する場合は、実施年次に80,000円～120,000円程度が必要となります。

専攻	実習経費	学外研究費	
絵画専攻	日本画	320,000円	180,000円
	油画	300,000円	180,000円
彫刻専攻		330,000円	180,000円
芸術学専攻		70,000円	160,000円
デザイン専攻		170,000円	180,000円
工芸専攻		320,000円	180,000円

【奨学金】

奨学金は、学業成績優秀な学生であって経済的理由により修学に困難がある者に対し、学資として貸与等がなされるものです。

奨学金には、(独)日本学生支援機構奨学金、(公財)沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金、(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金、地方公共団体等の奨学金、その他民間団体による奨学金等があります。

(独)日本学生支援機構奨学金(貸与)

多くの学生が利用している奨学金です。

本学では、貸与希望者向け説明会を4月に開催しています。

【学部】

奨学金の種類	貸与の方法	貸与金額	
		自宅通学	自宅外通学
第一種奨学金 (利息の無いタイプ)	月額	45,000円	51,000円
		20,000円	
		30,000円 40,000円	
第二種奨学金 (利息が付くタイプ)		20,000円～120,000円(1万円単位)から選択	
入学時特別増額貸与奨学金	一時金	100,000円～500,000円(10万円単位)から選択	

【大学院】

奨学金の種類	貸与の方法	貸与金額	
		修士課程	博士課程
第一種奨学金 (利息の無いタイプ)	月額	50,000円 88,000円	80,000円 122,000円
		50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 150,000円	
入学時特別増額貸与奨学金	一時金	100,000円～500,000円(10万円単位)から選択	

(独)日本学生支援機構奨学金(給付)

高等教育無償化制度の対象者に対し、奨学金を給付します。【学部生のみ】

(公財)沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金(給付)

沖縄県立芸術大学に在学する学生(姉妹校派遣及び受入留学生を含む)で、人物、学業ともに優れ、学資の支弁が困難と認められる者(他から奨学金の貸与又は給付を受ける者を除く。但し留学生はこの限りではない。)

給付額: 自宅通学者 月額 25,000円

自宅外通学者 月額 30,000円

(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金(貸与)

沖縄県に本籍または住所を有する者の子弟で、人物、学業ともに優れ、かつ健康であり学資の支弁が困難と認められる者。他から奨学金の貸与を受けていない者。

貸与額: 学部生 月額 40,000円

修士課程 月額 70,000円

博士課程 月額 80,000円

その他、地方公共団体、民間団体による奨学金

各市町村育英会等からの募集については、直接希望者が出願するのがほとんどです。また、それぞれ応募期間、申込先、応募資格等が異なります。各民間団体からの募集については、その都度、応募期間等について掲示板にてお知らせ致します。

学生生活サポート

■保健室



保健室では、心身ともに健康で充実した大学生活が送れるようサポートしています。

毎年5月に定期健康診断を実施するほか、ケガや病気の応急処置はもちろんのこと、健康上の不安やこころの悩みなどの相談窓口にもなっています。

また、体調の維持・管理のための食事(栄養)相談や、身長、体重、血圧などの測定ができます。

もし、気分が悪いときはベッドで休養もできますので、気軽にご利用ください。

■学生相談室

大学生という新しい環境に馴染むには不安と緊張が伴います。学生相談室では、大学生活を送る上で抱える様々な悩みや迷いについて、専門のカウンセラーが話をうかがいます。

劣等感や人見知りなど、こころの問題をはじめ、学業、人間関係、自身の成長、不安やストレスによる心身の症状、障害による困り感などがあれば、一人で抱え込まずに気軽にご相談ください。

■ハラスメント相談

大学生活において人間関係のコミュニケーションや信頼関係をより良いものとするため、学生・教職員のハラスメントに関する学内相談員を設置しています。随時相談を受け付けており、プライバシーを重視し、面談を行っています。

■合理的配慮について

合理的配慮とは、障がいなどを抱える学生が直面する学修上の困り事に対し、個別に対応・調整を行うものです。

このことは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(いわゆる障害者差別解消法)において定められています。ここでの障がいとは、障害者手帳の有無に限らず、

身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいや高次脳機能障がい、その他の心や身体の働きに障がい(難病に起因する障がいも含まれます)がある人で、その障がいや社会的障壁によって制限を受けている人全てが対象となります。

本学では、障がいなどを抱える学生から何らかの対応を必要としているとの意志が伝えられたとき(申請があったとき)、負担が重すぎない範囲で個別に対応します。このことを合理的配慮と呼んでいます。

■公聴について

学内(当蔵、金城、崎山キャンパス)の事務局窓口前にご意見箱を設置し、随時意見を受け付けております。(匿名可)

意見への対応については、学内で審議し、結果を掲示により公表しております。

■学生食堂



当蔵キャンパス福利厚生棟地下にある学生食堂は、日替わり定食、沖縄そばといった定番メニューを手頃な価格で提供しています。授業や研究に忙しい学生たちの食生活を支えているほか、一般の方にも開放されており、誰でも気軽に利用できる食堂となっています。

■キャンパス間シャトルバス



首里当蔵キャンパスと首里崎山キャンパスをバスで結ぶことにより、学生のキャンパス間移動の負担を軽減しています。運行本数は1日2便です。

■学内無線 LAN (Wi-Fi)

学習環境の充実を図るため、当蔵キャンパス及び崎山キャンパスの教室、エントランスホールに学内無線 LAN (Wi-Fi) を整備しています。

芸大祭

本学では、毎年11月に在学生が中心となって「芸大祭」を開催しています。芸大祭は、本学の『建学の理念』にある「沖縄文化が作り上げてきた個性の美と人類普遍の美を追究すること」の研究発表・自主的活動促進の場です。毎回テーマを設定し、学生同士、また地域の方々との交流の場として、大きな役割を担っています。



写真：2015年芸大祭

オープンキャンパス

芸術系大学および大学院へ進学を希望する方々を対象に、本学の教育活動や学習環境の一端を知っていただけるようオープンキャンパスを開催しています。

各専攻・専修に分かれ学部・大学院についてご紹介し、個別相談会などを企画しております。

2023年度は右記のとおり予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。



イベント情報

Campus Open

オープンキャンパス2023

6/11 日 美術工芸学部・音楽学部

7/30 日 美術工芸学部・音楽学部

10/8 日 音楽学部

2024 3/17 日 美術工芸学部

入試案内



入試案内HP

1 一般選抜【全学部全専攻、大学院実施】

実技試験と学力試験及び調査書(大学院は調査書は無し)等により総合的に判断し、選抜を行っております。

2 学校推薦型選抜【彫刻専攻を除く全学部全専攻実施】

大学入学共通テストを免除し、出身学校長の推薦書等の出願書類及び志望学科専攻による選抜試験の成績結果を総合的に判断し、選抜を行っております。

3 社会人選抜【音楽学部音楽学科琉球芸能専攻/大学院比較芸術学専攻のみ実施】

大学入学共通テストを免除し、志願理由書等の内容、小論文、実技及び面接等により総合的に判断します。

※詳しくは、ホームページ等でご確認ください。

2024年度 入試日程

■大学入学者選抜

選抜方法		学部(専攻)	出願期間	選抜期日
一般選抜(学部)	前期日程	美術工芸、音楽	2024年1月22日(月)~2024年1月31日(水)	2024年2月25日(日)~2024年2月27日(火)
	後期日程	美術工芸(絵画・彫刻・工芸)	2024年1月22日(月)~2024年1月31日(水)	2024年3月12日(火)~2024年3月14日(木)
学校推薦型選抜(学部)		美術工芸(絵画・芸術学・デザイン・工芸)	2023年11月1日(水)~2023年11月8日(水)	2023年11月18日(土)・2023年11月19日(日)
		音楽	2023年11月1日(水)~2023年11月8日(水)	2023年11月18日(土)・2023年11月19日(日)
私費外国人留学生選抜(学部)		美術工芸、音楽	2024年1月22日(月)~2024年1月31日(水)	2024年2月25日(日)~2024年2月27日(火)
社会人選抜(学部)		音楽(琉球芸能)	2024年1月22日(月)~2024年1月31日(水)	2024年2月25日(日)~2024年2月27日(火)

■大学院入学者選抜

研究科		専攻	出願期間	選抜期日
造形芸術研究科 (大学院・修士)	9月試験	比較芸術学(一次募集)	2023年7月31日(月)~2023年8月7日(月)	2023年9月2日(土)~2023年9月3日(日)
	2月試験	生活造形、環境造形、比較芸術学 (二次募集)	2023年12月4日(月)~2023年12月11日(月)	2024年2月3日(土)~2024年2月4日(日)
音楽芸術研究科(大学院・修士)		舞台芸術、演奏芸術、音楽学	2023年9月15日(金)~2023年9月25日(月)	2023年10月21日(土)~2023年10月22日(日)
芸術文化学研究科(大学院・博士)		芸術文化学	2023年12月18日(月)~2024年12月22日(金)	2024年2月9日(金)~2024年2月12日(月)

大学案内(冊子印刷物)の請求・受け取り方法

1. テレメールで請求する場合

有料により請求が可能です。

資料請求番号:568302

料金等:215円(260g)

インターネット:テレメールwebアドレスを用いて請求してください。

○テレメールwebアドレス/<http://telemail.jp/>



※発送開始時期と送料については、変動することがあります。

資料名	発送開始時期	資料請求先
大学案内	4月下旬	インターネット

2. 本学で直接受け取る場合

下記の場所で配布いたします。

事前に電話予約の上でご来校ください。

請求・受け取り先

〒903-8602

沖縄県那覇市首里当蔵町1-4

沖縄県立芸術大学事務局教務学生課

TEL. 098-882-5080

郵送希望の場合

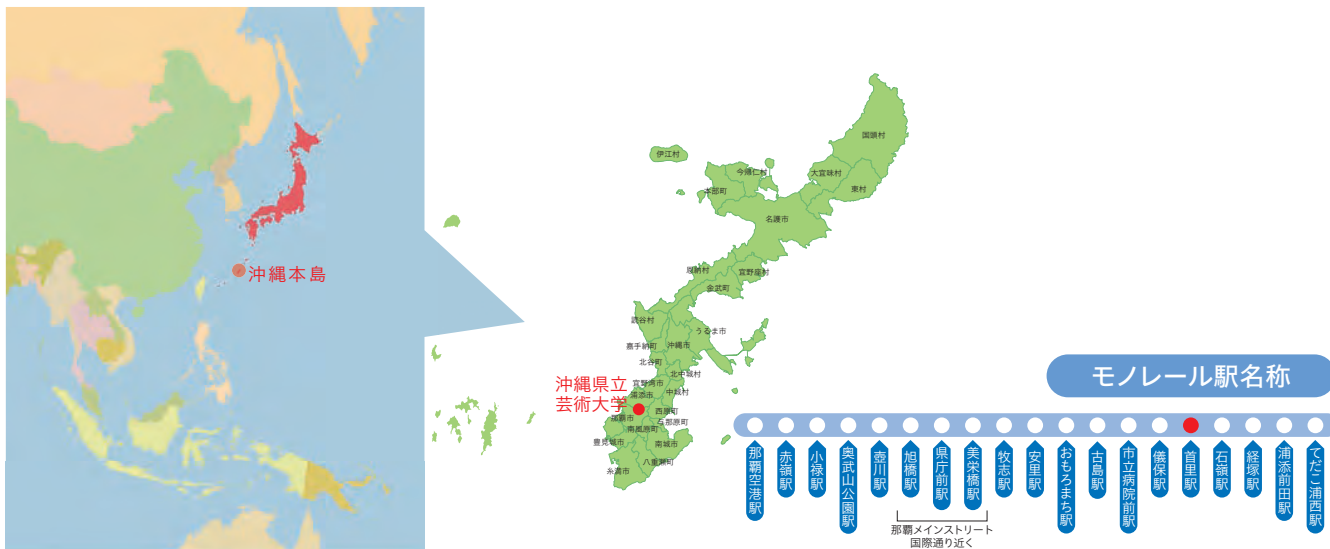
封筒の表に「大学案内請求」と朱書きし、上記の住所に郵送してください。

返信用封筒(角形2号・33cm×24cm)を同封してください。

返信用封筒には、あて先(請求者の郵便番号、住所、氏名)を明記し、送料相当額(390円)の切手を貼ってください。

アクセスマップ

沖縄県立芸術大学の位置 Location of the Okinawa Prefectural University of Arts





公立大学法人
 **沖縄県立芸術大学**
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地
TEL 098-882-5000 (代表) FAX 098-882-5033